

年月日
長官宛
何小區
酒類營業取締人 何ノ誰印

奧書第一號ニ同シ
第三號

明治何年分何酒造増石御届
鑑札番號ヲ記載スヘシ

番號
一増石何拾石
何町
何ノ誰
三月届書式
見込ノ石數何百石ノ内所
何村何番地出店
何ノ誰

七月届書式
見込ノ石數何百石ノ内所本年三月
石何石御届仕
差引 殘何百何拾何石
合 計 増 減 石 何 百 石
内所増減石
合 計 増 減 石 何 百 石
見込石數何千石ノ内所
差引 殘 石數何千何百石
稼 入 何 人

右者何酒造營業人共明治何年分酒造見込ノ石數ノ内増減石
書面之通候ニ付此段御届仕候以上
高知縣阿波國何大區

何小區
酒類營業取締人 何ノ誰印

明治十年
年月日
七〇三

長官宛

與書第一號ニ同シ

七〇四

第四號

明治何年何月中上何酒賣捌具價御届

上何酒壹石ニ付

何町 何ノ誰

一金何圓

何村 何ノ誰

同 一金何圓

何町何番地出店 何ノ誰

一金何圓

何ノ誰

以下倣之

合金何拾何圓

稼人何人

右何酒造營業人共ニ於テ明治何年何月中賣捌上酒具價書
面之通候ニ付此段御届仕候以上

高知縣阿波國何大區

何小區

酒類營業取締人何ノ誰印

年月日 長官宛

與書第一號ニ同シ

第五號

(朱) 酒造及請賣廢業御届

鑑札番號ヲ記載スヘシ

番號

一清酒造營業

何村何番地出店 何ノ誰

明治十年

七〇五

何年何月 業

番號

何町何番地出店
何ノ誰

何年何月廢業
以下倣之

免許鑑札何枚

小以何名

(朱) 以下味淋燒酎銘酒酒類受賣其右体裁ニ倣ヒ記載スヘシ

合計何拾何石

免許鑑札何拾何枚

右者當區內酒造並ニ酒類受賣營業ノ者明治何年限(朱) 明治ハ
治九年限リト届ナレハ明廢業書面之通候ニ付御免許鑑札相
添此段御届仕候也

高知縣阿波國何大區

何小區區長或ハ戶長

何ノ誰印

年月日
長官宛

甲第六號

(朱) 何酒造御免許鑑札賣買願
酒類受賣

鑑札番號ヲ記載スヘシ

番號

一何酒釀造營業免許鑑札壹枚

(朱) 但釀造酒何百石共

右者今般賣買仕候ニ付御免許鑑札御引換被成下度此段奉
願候以上

高知縣阿波國何大區

年月日

何小區何村何番地住

士族或ハ平民

(朱)

賣買主同區ナレハ取締人
賣買主ノ次ヘ記載スヘシ

賣主

何ノ誰印

右區酒類營業取締人

何ノ誰印

同縣同國何大區何小區

何町何番地住

士族或ハ平民

買主

何ノ誰印

右區酒類營業取締人

何ノ誰印

長官宛

前書之通相違無御座候也

(朱)

賣主所属

高知縣阿波國何大區
何小區區長或ハ戶長

何ノ誰印

(朱)

買主所属

同縣同國何大區何小區區長
或ハ戶長

乙第六號

(朱)

何酒造御免許鑑札御引換願
何酒類受賣
鑑札番號ヲ記載スヘシ

番號

一 何酒造營業免許鑑札壹枚
何酒類受賣國何大區何小區何町何番地へ轉居私

右ハ今般儀何ノ誰ト改名父或ハ兄弟何ノ誰隱居病死

明治十年

仕候ニ付御免許鑑札御引換被成下度此段奉願候以上

高知縣阿波國何大區

何小區何町何番地住

或ハ族或ハ平民何ノ誰長男

或ハ兄弟誰事

酒類營業取締人 何ノ誰印

年月日

長官宛

奥書第一號ニ同シ

第七號

酒造桶新規調製ニ付御調査願

一酒造桶何本

丙

(朱) 桶番號ヲ記載スヘシ

番號

口徑 何尺

底徑 何尺何寸

深サ 何尺

石數 何石

番號

口徑 何尺

底徑 何尺

深サ 何尺何寸

石數 何石

以下倣之

(朱) 地震用心ノ爲メ三寸ヲ減シ殘ヲ記載スヘシ

明治十年

右者今般輪新規調製仕候ニ付御檢査ノ上御調査証御下渡被
 成下度此段奉願候以上

七二二

高知縣阿波國何大區
 何小區何村何番地住
 士族或ハ平民

年月日
 酒類營業取締人 何ノ誰印
 何ノ誰印

長官宛

與書第一號ニ同シ

第八號

明治十年

(朱) 印 割	
第何號	酒桶調査証
一何酒桶	何郡何村何番地或ハ 何ノ誰
口徑 何尺何寸 (朱) 捺印	(朱) 調査官員
底徑 何尺何寸 ○	
深サ 何尺何寸 ○	
石數 何石何斗 ○	
右調査ノ上之ヲ下附ス	
年號月日 高知縣德島支廳	(朱)

七二三

第九號

酒造桶賣買願
一酒造桶何本

(朱)

内

桶番號ヲ記載スヘシ

番號

口徑 何尺

底徑 何尺何寸

深サ 何尺
壹本

石數 何石

番號

口徑 何尺

底徑 何尺

深サ 何尺

石數 何石

壹本

以下倣之

右者今般賣買仕候ニ付御調査証御引換被成下度此段奉願
候以上

高知縣河波國何大區

何小區何村何番地住

士族或ハ平民

賣主

何ノ誰印

年月日

(朱)

右同區酒類營業取締人

賣買主同區ナレハ取締人

何ノ誰印

賣買主ノ次ヘ記載スヘシ

明治十年

七二五

七二四

同縣同國何大區何小區

何村何番地住

士族或ハ平民

買主

何ノ誰印

右區酒類營業取締人

何ノ誰印

長官宛

與書甲第六號三同

第十號

(朱)

酒造桶廢棄並他營業ノ者へ賣却御屈

桶番號ヲ記載スヘシ

番號

何町

一酒造桶壹本

何ノ誰

何月何日御檢印削除燒却ハ上取毀テ

番號

何

誰

一同壹本

(朱)

同月同日前同斷賣却

以下倣之

合計何拾本

御調査証何拾枚

右者酒造營業人共所持ノ酒造桶客月廢棄並他營業ノ者へ

賣却書面ノ通候ニ付御調査証相添へ此段御届仕候以上

高知縣阿波國何大區

何小區

酒類營業取締人 何ノ誰印

明治十年

七二七

長官宛

奧書第一號ニ同シ

九月四日 一時達

左ノ通達有之候條爲心得此旨相達候事

丙第四號

沿海府縣

五拾石未滿漁舟

一三吉丸 但小樽改ノ燒印アリ

右者當管下天鹽國增毛郡增毛村湊谷松兵衛所有ニテ同
人外五人乘組昨九年十二月十六日同國留萌郡留萌村出
舟ノ儘行方不相知段届出候ニ付自然右舟漂着候歟又ハ
所在見聞及候ハ、速ニ當使ヘ可届出此旨相達候事

明治十年八月廿三日

開拓長官黒田清隆

阿波國一般ヘ〇

一時達

九月五日

九月八日

九月十八日

地租改正中假收税ノ儀ハ昨九年分第一期第二期納割賦ノ
節觸示置候通ニ付テハ調査中地所賣買セシモノト雖モ改
正地券授與ノ者ヨリ過不及精算可致管ニ付其際不都合無
之豫豫テ可相心得旨區内無洩可及諭達此旨相達候事

一時達

九月廿二日

九月廿九日

九月廿四日

大坂並和歌山縣ヨリ通知難破舟ニ付流
失品ノ事
阿波國各區々戸長ヘ

明治十年

地租改正地位等級組織方ノ儀ニ付本年丙第六十六號達ノ云々モ有之候處二月十五日付番外達組織心得方五ヶ條ノ儀ハ取消ニ無之候條此旨可相心得事

廿九日 阿波國各區々戸長へ

別冊虎列刺病豫防法心得書頒布候條平生豫防方篤ク注意シ萬一該病ノ徵候發見候ハ、直ニ區内醫員ト協議シ傳染拒絕ノ方法取行候上患者ノ人名及ヒ容體書トモ速ニ德島支廳へ可届出事

但本文豫防法心得書餘分頒布候條區内醫員ノ輩へ適宜配分可致事

乙第七十九號

虎列刺病豫防法心得別冊編製相成候條實地流行ノ際ニ於

テハ更ニ該法ヲ考訂斟酌シテ臨時相違候儀モ可有之候得共豫防法方ノ儀ハ病毒侵入ノ前豫メ注意ヲ要スル事件不尠ニ付爲心得此旨相達候事

明治十年八月廿七日

内務卿大久保利通

虎列刺病豫防法心得

第一條 外國地方ニ(虎列刺)病流行シテ内務省ヨリ檢疫規則ヲ施行ヲ命スルキハ開港場アル地方長官ハ醫員衛生掛警察吏等ヲ撰定シテ其委員トナシ外國領事ニ協議シ該規則ヲ遵奉シテ豫防拒絕ノ事ヲ擔任セシムヘシ

第二條 「虎列刺」病流行ノ地方ヨリ來ル船舶ハ港外一定ノ

地ニ於テ檢疫委員其船ニ就キ船長並ニ醫官ニ患者或ハ死屍ヲ有無ヲ尋問檢按シ該病者ニ罹レルモノ或ハ疑似

明治十年

ノ症狀アルモノハ之ヲ避病院ニ移シ病者ナキモノト雖
モ若干ノ時日ヲ限リ入港ヲ許サ、ルコアルヘシ

第三條 港口ニ於テ離島或ハ人家隔絶ノ地ヲ撰ニ臨時避
病院ヲ設ケ入港船舶ノ「虎列刺」患者ヲ入ルハニ供シ或ハ

便宜ニ從ヒ該地方ニテ此病ニ罹リタル者モ入院セシム

ルコアルヘシ

但避病院ハ其構造極メテ輕易ヲ主トシ三棟ヲ建ルカ

或ハ一棟ニシテ三室ニ區畫シ輕症重症恢復期ノ患者

ヲ分テ置クヘシ

第四條 避病院ニハ黄色ノ布ニ「Q」字ヲ黒記シタル標旗ヲ

建テ其境界ニハ制止榜ヲ建テ嚴シク外人ノ交通ヲ絶ツ

ヘシ且ツ該院ニ需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲ定メテ購

入ルコトヲ命ジ

未シ其使丁ハ決シテ病室ニ入り或ハ病室汚染ノ物品ニ

觸レシムヘカラス

第五條 避病院ノ病者全快シタルトキハ委員ヨリ全快シ

証書ヲ與ヘ衣服其他一切ノ什具ニ消毒法ヲ行ヒ退院セ

シムヘシ病者輕快ニ趣クハ委員ノ許可ヲ得ルニ非レハ

決シテ院外ニ出ツルヲ許サス

第六條 避病院ニ於テ死亡シタルモノ、埋葬地ハ委員ニ

於テ相定メシ安リニ埋葬スヘカラス但シ該地方ニ墓地

ヲ有スルモノ委員ノ許可ヲ得消毒法ヲ行フノ後ハ運搬

スルモ妨グナシ

第七條 以上六條開港場アル地方ニテ檢疫規則ニ參酌シ施行

スヘキモノトス以下流行ノ時地方一般ノ豫防法ニ係

第七條 地方官ハ管内ニ「亞細亞虎列刺」病者アルコトヲ醫師

ヨリ届出タルキハ其性ノ眞偽ト諸症ノ緩劇トヲ詳カニ

シ若シ眞ニ「亞細亞コレラ」ナルヲ確認スルキハ委員ヲ命

ジ豫防ノ方法ヲ着手シ内務省ニ申報シ且ツ管内近隣ノ

地方廳ニ報告スヘシ

第八條 醫師ハコレラ病者ヲ診察スルキハ其時々直チニ

區戸長或ハ醫務取締ヲ經テ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 地方廳ハ醫師ヨリ日々出ス處ノ申牒ヲ集メ患者

ノ數ト死者ノ數トヲ記シ毎土曜日之レヲ内務省ニ申報

スヘシ

第十條 地方長官ハコレラ病流行ノ勢盛ナルキハ日々

二十四時間ノ死亡員數ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 貸家族店泊泊ノ船學塾及ヒ諸製造所ノ主等總

テ衆人ヲ管スルモノハ若シ其内ニコレラ病ニ罹ル者ア

ル時ハ二十四時内ニ委員區戸長或ハ醫務取締ニ届クヘ

シ

第十二條 陣營ノ主將軍艦ノ船將モ其配下ニコレラ病者

アルキハ二十四時内ニ其地方廳ニ通知スヘシ

第十三條 「コレラ」病者アル家族ハ看護ニ緊要ナル人ノ外

ハ成丈ケ他家ニ避ケシメ妄リニ往來スルヲ許サズ患者

恢復或ハ死亡ノ後消毒法ヲ行ヒ十日ヲ經ルニ非レハ學

校ニ入ルヘカラス

第十四條 「コレラ」病流行ノ時ニ際シ地方長官ハ祭禮開市

等無益ニ他方ノ人ノ群集スル事件ヲ禁スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方官ハ病勢ノ緩急ト人

口ノ多寡トニ應シ管内各市邑ニ於テ特ニコレヲ患者ノ

ミヲ療養スル假病院ヲ設ケ旅店ノ貸家等多人數同居ノ

患者ヲ移シ入ルヘシ

第十六條 委員ハコレヲ患者アル家宅船舶ノ門戶入口ニ

著シクコレヲ傳染病アリノ數字ヲ記シテ之ヲ貼付シ成

丈ク無用ノ人ノ交通ヲ絶ツヘシ

第十七條 委員ハ特ニコレヲ患者ノ吐瀉物ニ注意シ該病

者アル家ハ一々其處置ヲ示諭シ決シテ便所下水芥溜田

圃河海等ニ投棄セシム可ラス

第十八條 委員ハコレヲ患者アル家屋船舶器具等消毒法

附録消毒法ヲ
參酌スヘシ

ヲ行ヒ或ハ器具ノ極メテ汚レタルモノハ買上ケテ之ヲ

燒却埋却スル等渾テ病毒傳播ヲ防制スル便宜ノ方法ヲ

設ケ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ 同上

第十九條 「コレヲ」病流行ノ時或ハ其恐レアル時ハ委員ハ

便所芥溜下水溝渠等總テ一般ノ清潔ニ關スル事件ニ注

意スヘシ但シ掃除ハ既ニ流行ノ時ニ及ンテハ或ハ行フ

テ却テ害アルコトアリ消毒法ヲ行フヘシ 同上

第二十條 「コレヲ」患者ヲ運搬シ或ハ該病ニ罹リテ後他行

シ或ハ患者若クハ死體ニ觸レタル物品ヲ消毒法ヲ行ハ

サル前贈與受用スル等渾テ不注意ニ由テ病毒ヲ他ニ傳

播スヘキ事件ヲ禁スヘシ

第二十一條 「コレヲ」病者ヲ病院或ハ其自宅ニ送ルニハ各

地方ニ於テ此規則ヲ參酌シ相當ノ手續ヲ定メ安リニ運搬轉移スルヲ禁シ且ツ其運送器ハ世間公用ノモノヲ用フルヲ許サス運送後ハ消毒法ヲ行ハシムヘシ
 排泄物或ハ病毒ニ汚染シタル器具ヲ消毒法施行ノ場所ニ送ルモ亦其手續ヲ定メ注意ヲ加フヘシ
 同上
 第二十二條 「コレラ」病者ノ死屍ハ該地方ニ定メタル埋葬地ニアラサレハ他ニ運送スルヲ許サス運送ノ器モ再ヒ生人ニ用フルヲ禁ス而シテ其通路ハ最モ捷近ナルモノヲ撰フヘシ

第二十三條 内國ノ港灣ニ於テ往來ノ船舶ニ「コレラ」病者アルカ或ハ十日以内ニ此病ニ斃レタル者アルカハ船舶前其舟師ヨリ該地ノ委員或ハ區戸長ニ届出テ其差圖ヲ

受ケザル場所ニ碇泊シテ全ク外人ノ交通ヲ絶チ消毒法ヲ行ヒ其許可ヲ得ルノ後ニアラサレハ其所ヲ移スヲ許サス

第二十四條 「コレラ」病流行ノ地方ニ在リテハ便宜ノ場所ニ消毒藥販賣所ヲ設ケ場所ハ新ニ此販賣所ヲ假設スル委員ニテ其藥價ヲ一定シ購求スルモノニハ施行ノ方法ヲモ傳示セシムヘシ貧困ノモノハ無費ニテ給與スルヲアルヘシ

豫防法附録消毒藥及其方法
 「コレラ」病ノ眞因ト其蔓延ノ實況トハ未タ明ヤナラスト雖モ其病毒ノ特ニ患者ノ吐瀉物ニ舍テレルヲハ諸説アリ一定シテ復々疑ヲ容レザル所ナリ

而此吐瀉物モ排泄ノ後直チニ傳染ノ毒ヲ逞フスルモ
 ノニ非サルニ似タリ少時ヲ經テ泡膿腐敗ニ陥リ然ル後
 始テ一種ノ傳染毒ヲ釀成スルモノナリ故ニ吐瀉物ヲ他
 ノ腐敗シタル物ニ混スルキハ其腐敗スル事太ク速カニ
 シテ病毒ヲ發生スルコト最モ甚タシコレヲ病者ノ吐瀉物
 ヲ他人ノ糞尿ニ混スル尋常ノ便所芥溜下トキハ大ニ其
 蔓延ノ勢ヲ熾ニスルモノナリ
 右ノ如クシテ發生シタル病毒ノ人體ニ侵入スルハ飯水
 「コレラ」病者ノ汚物ヲ埋メタル近傍ノ水源食物「コレラ」病
 或ハ井水ニ病魚介畜ノ肉或ハ該排泄物ヲ培養ニ供シ
 物ヲ食ヒタル病家畜中ニ在リテ之ニ染ミ或ハ小蟲等
 汚物ヲ糞尿ニ附點スル氣中ニ在リテ之ニ染ミ或ハ小蟲等
 等ヨリ傳フルニ由ルル或ハ消毒法ヲ行ハサル便所ニ上
 ル等ナリ而メ人體器具モ亦能ク病毒ヲ傳播スルノ媒介

トナルモノナリ

此故ニ海陸ノ檢疫規則ヲ以テ全ク此病ヲ拒絶スルノ企
 望其目的ヲ達スルコト極メテ難シトス而シテ消毒ノ法ハ近
 來「コレラ」病豫防方法中最大緊急ノ事件トナリ其豫防ノ
 實績ヲ奏シタルハ各國ノ普ク實驗スル所ナルヲ以テ此
 方ヲ施行スルハ之ヲ人民各自ノ注意ニ任シ足レリトス
 ヘキモノニアラス必ス勸奨或ハ強迫シテ嚴重ニ奉行セ
 シムルハ保護ノ要件ナリトス是レ此方法ハ直チニ病毒
 ヲ撲滅スルノカアルカ故ニ精密ニ注意シテ施行スルキ
 ハ能ク其蔓延ヲ制シ且ツ該地ノ病根ヲ永遠ニ絶ツコトヲ
 得ルモノナレハナリ概今歐洲諸國傳染病流行ノ時ニ際
 ノハ一般ニ之ヲ施行シ之レカ爲ニ莫大ノ國費ヲ要スト

消毒藥中最有力ノモノハ石炭酸ヲ第一トス近來消毒法
 ノ聲譽ヲ得タルハ職トシ此發明ニ由ルナリ之ニ次クモ
 ノハ亞硫酸瓦私ナリ綠礬ノ單用ハ防臭ノ能アルヲモ病
 毒ヲ撲滅スルニ足ラス亦タ石炭酸ヲ配用スヘシ
 消毒藥方

(第一)粗製石炭酸
 四十五分ヨリ六十分ノフェニル酸即チ結晶ヲ含ムモノ
 ニシテ稍色ヲ帶ヒ流動シテ水ニ溶化シカタク「テ」
 化スレハ不快ノ臭氣ヲ發ス
 (第二)石炭酸末
 右ノ粗製石炭酸ニ木炭砂、灰、鉛屑等ノ粗末ヲ化シタル物

(第三)結晶石炭酸
 無色ノ結晶酸ニシテ全ク水ニ溶解スルモノ
 二十八分ノ水
 (第四)石炭酸水
 結晶石炭酸六分ヲ百倍ノ水ニ溶シタルモノ
 (第五)石炭酸溶液
 結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ和シタルモノ
 (第六)硫酸鉄ト石炭酸トノ混和溶液
 百五十ガラムノ粗製石炭酸ヲ加ヘタルモノ
 (第七)石炭酸蒸氣
 此合劑ハ久シク貯フヘカ
 ラス用ニ際テ調合スヘシ
 (第七)石炭酸蒸氣ハ結晶酸ヲ粗製
 用ニ

石炭酸ヲ皿ニ盛り文火ニ上セ蒸散セシム

(第八) 亞硫酸瓦私

硫黄ニ火ヲ點シ燒テ瓦私ヲ獲ス

(消毒藥用法)

消毒法ヲ施行スルニハ(第一)其瀉物吐物及ヒ此吐瀉物ヲ以テ汚シタル衣服夜具紙屑布片等及ヒ其死體(第二)患者ノ消息シタル居室船室若クハ病院陣營等(第三)便所塵芥下水等一切不潔ノ淨除ニ注意スヘシ

(第一) 病毒ニ汚染シタル物品

(排泄物)吐瀉物ヲ受ル器ハ豫メ綠礬ニ石炭酸ヲ混シタルモノ(第六)一合餘ヲ入レ置キ用ヲ終ルノ後ハ直ニ屋外ニ持出シ洗淨シテ又右ノ消毒藥ヲ入レ後用ニ備フヘシ

吐瀉物並ニ其器ヲ洗淨シタル水及ヒ吐瀉物ニ染キタル紙屑布片ハ溝渠下水芥溜田圃等ニ投棄スヘカラス且ツ此吐瀉物他ノ腐敗物ニ混スルハ其病毒ヲ醸成スルノ殊ニ甚シキヲ以テ決シテ之ヲ尋常ノ便所ニ投シ健康ナル人ノ糞尿ニ混スヘカラス總テ「コレラ」病者ノ排泄物ハ悉皆之ヲ取分ケ深ク土ヲ堀リテ之ヲ埋メ十分ニ石炭酸末(第二)ヲ撒布シ然ル後土ヲ覆ヒ雜草ヲ種ニヘシ又排泄物ヲ燒却スルハ殊ニ瓦トス淺ク穴ヲ掘リ底ニ乾キタル醜或ハ飽屑ヲ布キ吐瀉物ヲ其上ニ投シ再ヒ醜或ハ飽屑ヲ覆ヒ石炭油ヲ灌キテ火ヲ點ス火勢滅スルハ之ヲ攪セ再ヒ油ヲ注キ全ク灰燼トナルノ後穴ヲ填メ雜草ヲ種ユルノ前ニ同シ但シ排泄ノ度毎ニ斯ク埋却燒却スルヲ要

セズ積ヲ若干ノ容量ニ至テ燒棄シテ可キ
 排泄物ハ家屋井戸用水等ヲ距ルコト七間以上ノ場所アラ
 サレハ埋ムヘカラス且ツ一穴ニ多量ヲ収ムヘカラス
 自宅ニ吐瀉物ヲ埋ム或ハ燒クノ餘地ヲ有セサルモノハ
 前段ノ如ク消毒法ヲ行ヒ置キ一日二回或ハ三回一定ノ
 場所ニ送ルヘシ委員ハ豫メ之レカ爲ニ恰當ノ地ヲ定メ
 排泄物ヲ處分スル所トナシ各家ヨリ送ル所ノ排泄物ヲ
 前法ニ從テ燒キ或ハ埋ムヘシ紙屑布片等ノ汚物ニ染ミ
 タルモノハ排泄物ト共ニ燒却スヘシ
 (衣服夜具)洗濯ニ堪ヘキ衣服ハ桶ニ入レ石炭酸溶液(第五)
 ヲ灌キ浸シ置クト一晝夜ニシテ更ニ熱湯ヲ注キ煮ルコ
 四分時後水ニ洗淨ス

洗濯ニ堪ヘサル衣服ハ其品柄ニヨリテ亞硫酸瓦私(第八)
 或ハ石炭酸蒸氣(第七)ヲ以テ蒸蒸スヘシ
 「コレヲ患者或ハ其死屍ニ觸レタル人ノ上衣ハ吐瀉物ニ
 汚染シタルニ非ラサレハ汚染シタルモノハ勿石炭酸溶
 液(第五)ヲ吹掛ケ或ハ海綿ニ浸シテ拭ヒ然ル後刷淨シテ
 空氣ニ晒スヘシ
 (夜具)ノ類モ石炭酸溶液ヲ浸シ後煮沸洗淨スルコト衣服ニ
 同シ其洗濯スヘカラサルモノハ十分ニ石炭酸ノ蒸氣ヲ
 薰シ或ハ溶液ヲ布片海綿ニ浸シテ洗刷スヘシ
 總テ衣服夜具疊席等ノ甚シク汚レタルモノハ買上テ燒
 却スヘシ
 (家具)木材ノ具飯膳ノ具等ハ皆石炭酸水(第四)ヲ灌キ然ル

後石鹼水ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗フヘカラサルモノ
 ハ亞硫酸瓦私(第八)或ハ石炭酸蒸氣(第七)ニテ蒸シ或ハ石
 炭酸溶液(第五)ヲ海綿布片ニ浸シ拭淨スヘシ
 總テ日常ノ家具ハ病室ニ入レテ一時ニ蒸蒸シ石炭酸水
 ヲ以テ洗淨スルヲ最モ良トス
 (書籍新聞紙)ノ類病室ニアリタルモノハ開キテ石炭酸蒸
 氣ヲ蒸スヘシ
 (器械)外科産科ノ道具職人手道具ノ類ハ石炭酸水(第四)ヲ
 以洗フヘシ
 (食物)ノ汚レタルモノハ投棄スヘキモノ居多ナリ或ハ消
 毒法ヲ行フテ足ルモノアリ委員ノ差圖ニ従フヘシ
 (死屍)コレヲ病ニ斃レタルモノハ成丈ク速ニ片付ケ十分

ニ石炭酸溶液(第五)ヲ浸シタル木綿ヲ以テ之ヲ包ミ健康
 ナル人ヲ近ツカシムヘカラス棺ノ内ニハ多量ノ石炭酸
 末(第二)ヲ充テ時々石炭酸溶液ヲ灌シヘシ

(第二)家屋船舶病室等

(部屋)コレヲ病者アル部屋並ニ死屍ヲ置ケル部屋ハ十分
 ニ石炭酸蒸氣(第七)結晶酸ヲ用ユヘシヲ蒸シ之ヲ満室ニ籠ムヘシ患
 者全快シ或ハ埋葬ノ後ハ先ツ室中ノ金銀器書畫彩色物
 絹物等ヲ取除ケ此品ハ別ニ相當窓戸ヲ密閉シ火鉢ニ火
 ヲ盛リ其上ニ硫黃ヲ置キ入口ヲ閉ツヘシ蒸蒸スルコト
 六時至八時ニシテ火鉢ヲ除キ窓戸ヲ開キ少時ヲ經テ室
 内ノ諸物ヲ大氣中ニ持出シ敲キ拂フヘシ天井建具等木
 製ノモノハ石炭酸水(第四)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨シ後

空氣ニ晒スヘシ

(運送器具)コレヲ病者或ハ其死屍ヲ運送シタル舟車駕等
ハ用フル度毎ニ石炭酸水(第四)ヲ以テ洗ヒ或ハ石炭酸蒸
氣(第七)亞硫酸瓦私(第八)ヲ薰スヘシ右ノ車駕中ニ具ヘタ
ル器具ハ前條ノ消毒法ヲ參酌シテ行フヘシ

(第三)便所芥留下水等

(便所)ハ日々其糞池ヲ掃除シ十分ニ綠礬石炭酸ノ合劑(第
六)ヲ撒布シ再ヒ汚臭ヲ放ツヲ見ハ直チニ之ヲ撒スヘシ
(芥留)ハ流行前ニ掃除スヘシ既ニ流行ノ時ニ及テ掃除ス
ルハ攪擾シテ其惡氣ヲ揮發シ却テ害アルヲアリ靜定シ
テ時々其上ニ石炭酸末(第二)ヲ撒布シテ之ヲ覆フヘシ或
ハ掃除ノ時ニ臨ミ石炭酸綠礬ノ合劑(第六)ヲ澁シモ亦良

(下水溝渠)ハ日々之ヲ疏通シ水ヲ澁テ洗淨スヘシ甚タシ
ク汚穢ノ滯塞シタル所ハ石炭酸水(第四)ヲ注シヲ良トス

一十月 阿波國各區々戸長へ

左書一印ノ通達有之候條徵兵連名簿並ニ人別表及ヒ檢査
表へ書載スヘキモノ各自其族職業二印科目ニ準據シ夫々
記註可致此旨相達候事

一印

達甲第二十九號

府 縣

徵兵連名簿並ニ人別表及ヒ檢査表中族職業認方ノ儀是迄

明治十年

區々相成調査上不都合不尠候條右何レモ徵兵事務手續書第十七條中徵兵族職業表科目ニ準據シ士族農政ハ平民商等各自其族職業ヲ記註可致此旨相達候事

陸軍卿山縣有朋代理

明治十年九月廿一日

陸軍中將西郷從道

二印

徵兵族並職業科目表

無職業	農	商	醫	神官
無職業	農	商	醫	神官
無職業	農	商	醫	神官

明治十年

表中掲ケル處ノ科目ノ外ニ諸職業數種アリト雖モ即今之

僧侶	木工	石工	火工	鑛夫	草工	縫工	獵師	舟夫	漁夫	雜業
僧侶	木工	石工	火工	鑛夫	草工	縫工	獵師	舟夫	漁夫	雜業
僧侶	木工	石工	火工	鑛夫	草工	縫工	獵師	舟夫	漁夫	雜業

ヲ要スルナキヲ以テ凡テ雜業ノ部ニ算入記載スヘシ
開拓使ヨリ掛合漂流舟ノ事
五月十六日 阿波國區戶長ヘ

戶籍加除ノ儀ハ主務ノ省御指令ノ趣ニヨリ自今區務所ノ
分ノミニ止メ候ニ付別段ヲ云フ届出ニ不及因テ一般戶籍
上取調ノ儀ハ專ラ區務所設備ノ帳簿ニ憑據候條左ノ條件
相心得一層精密ニ可取調此旨相達候事

但是迄士民ヨリ縣廳ヘ差出來候戶籍ニ係ル願届等ハ從
前ノ通ニ候事

第一條

人民ヨリ諸願届ハ細密戶籍ニ對照シ副書或ハ與書等可
致儀ニ付殊ニ戶籍ニ係ルノ部分ハ管ニ本書ノ主旨ヲ確認

スルノミナラス兼テ族籍姓名等親血續等ニ至ル迄誤謬ナ
キヲ保証スヘシ依テ副書或ハ與書中書面ノ趣取調候處事
實相違無之云々ノ文字ヲ加入スルヲ要ス

第二條

總テ戶籍ニ係ル諸願届中族籍姓名等親血續等ノ不調査
ヨリ起ル失錯ハ一切戶長ノ責ニ任スヘキモノトス

一時達

阿波國沿海區戶長ヘ難船漂流物ノ事

一時達

同 阿波國各區々戶長ヘ

左ノ通達有之候條此旨相達候事

明治十年

府 縣

達甲第三十號

徵兵令參考第十條ニ當リ常備新兵入營ノ節附添戸長人員ノ儀是迄區々相成不都合不抄候條自今必ス徵兵一辨ニ付二名乃至三名ヲ限リ引纏メ入營可爲致候此旨相達候事

陸軍卿山縣有朋代理

明治十年九月廿九日

陸軍中將西郷從道

十七日 阿波國各區々戸長へ

左ノ通達有之候條其向々へ無洩達方可取計此旨相達候事

達甲第三十一號

鎮臺府縣

辛未秋廢藩四鎮臺ヲ被置候節舊諸藩ヨリ召集ノ兵去ル八年二月九日現在服役ノ者へ同年六月一日ヨリ二ヶ年間一人口下賜候常備及ヒ第一第二後備軍並ニ隊外等服役中ノ

者ニラヌシテ今度臨時召募ニ應シ候者ニ限リ更ニ本年六月一日ヨリ向キ二ヶ年間一人口下賜候條此旨相達候事但本年達甲第二十號達ノ儀ハ本文達ニ相改候儀ト可心得且ツ賞典米賜方規則等ノ儀ハ總テ從前ノ通り可相心得事

陸軍卿山縣有朋代理

明治十年十月五日

陸軍中將西郷從道

十八日 阿波國一般へ

左之通海軍省ヨリ達有之候條此旨布達候事

但同省へ出身罷在候下士以下ノ向ハ各自現在籍寫本人名上へ何年月日何々奉職等詳カニ書職シ管區戸長ノ與書証印ヲ請共戸主或ハ親族ノ内ヨリ來ル三十日迄ニ無

明治十年

相違德島支廳へ可差出候事

乙第七號

府 縣

當省所轄下士以下移籍改名其他戶籍上ニ係ル届出方ノ儀
 ニ付明治七年八月記三套第四十四號ヲ以テ及布達候極モ
 有之婚姻生死等ヲ始メ總テ戶籍上變換ノ節ハ其都度無遅
 滞可届出ノ處中ニハ往々等閑ニ附シ年月ヲ經テ届出候向
 モ有之右ハ家族扶助金下渡ニ付金錢出納年度期限モ有之
 且兵籍上不都合不抄候條自今右等ノ節ハ其都度無遺漏區
 戶長調印ノ上各管廳ヨリ當省軍務局へ可届出此旨更ニ相
 違候事

但本文届出方及遷延候向ハ爾來届出ノ年月ヨリ起算扶
 助金支給候儀ト可相心得事

海軍大輔川村純義代理

明治十年九月廿六日

海軍少將中牟田倉之助

十六日 十年二十六號二十九號四十四號公達並
 ニ行在所御達八號十一號十二號十三號

十四號十五號及ヒ行在所布告七號被廢
 タル事

一時達

難破舟ニ付流失品ノ事

廿二日 阿波國各區々戶長へ

石炭醜並ニ硫酸ハ劇藥ニ付本年(二月)太政官第二十號毒藥
 劇藥取扱規則ヲ以テ安リニ販賣不相成旨御布告相成候處
 流行病有之節ニ限リ五十倍以上ノ水ニ溶解シタル分及ヒ

明治十年

他ノ藥物ト混和調製シタル分ハ縣限リ販賣可差許旨太政
官御達有之候就テハ豫防消毒藥販賣ノ儀ニ付本月六日附
ヲ以テ相違候藥舖及ヒ其他新ニ販賣所ヲ假設致シ候向キ
ヘ無洩漏通示可致此旨相違候事

但本月六日達書中本文ニ抵觸候條ハ取消候儀ト可相心
得事

廿十日 阿波國各大區學區取締ヘ

今般徳島師範學校附属洋學席假規則第五條左ノ通改正候
條此旨相違候事

第五條教科ノ概則ヲ掲ケルコト左ノ如シ
級外
ウエプストル 字音書

ウヰルリソ 第一リードル

同 第二リードル

第六級 文法書

ビ子オ 萬國史

パ一レ一 地理書

ミツチエル 地理書

第五級 英國史

ク一トリツト 大英國史

シエツケンナス 大英國史

ホルテル 化學書

第四級 窮理書

ウエルス 窮理書

明治十年

グートリツチ	博物書
ホワイト	法國史
第三級	
ウエーランド	脩身論
ハチリン	生理書
ウエーランド	經濟書
第二級	
キア	文明史
ロング	政事書
ウエーランド	精神論
第一級	
ミル	經濟論

ミル ロツツ ウルシ 萬國公法

廿五日 阿波國一般へ

虎列刺病類似ノ症有之節屈方ノ義豫テ及布達假候處右屈方ノ義ハ瞬速ヲ要シ候モノニ付自今左書ノ箇所へ便宜ヲ以テ届書又ハ口上ニテモ速ニ可届出此旨無波相違候事但戸長へノ届出及戸長ヨリ德島支廳へ届出ノ手續へ總テ是迄ノ通可相心得事

德島支廳

警察署

警察分署

追テ右箇所へノ届書ハ戸長等ノ與書ニ不及候事

廿五日 一時達

明治十年

十月十五日
十月十三日
十月十七日
十月廿三日
十月廿七日
十月三十日

同
同
漂流物ノ事
阿波國各區々戸長へ

阿波國各區々戸長へ

年次徴兵相當及ヒ免役ニ適セルモノ並ニ國民軍年齡ノ者
取調云々達文中左ノ通増補並ニ正誤候事
達書第八行十月ノ下十七日ノ三字ヲ増ス
手續書第六項万延二酉年ハ文久元酉年ニ改ム
十月三十日 阿波國各區々戸長へ
虎列刺病或ハ類症ノ患者有之節ハ直ニ委員或ハ巡查等ノ
内醫員召進出張ノ上虎列刺症ト診斷致シ候以後ハ病家ニ
醫生ヲ撰ハセ候得トモ其施治ノ方法藥劑等警察署及ヒ分

署諸醫員ヨリ質問シ不都合ト視認候ハ、尙爲撰替候條豫
テ心得置ヘシ旨區内無洩可相達事

十一月十一日
十一月十二日
十一月十一日

十一月十一日
十一月十二日
十一月十一日

漂流舟之事
阿波國各區々戸長へ

虎列刺病毒ニ汚染シタル物消毒藥法ニ基キ自宅ニオイテ
所置スヘキ場所無之候トモ之レヲ妄ニ河海溝渠下水或ハ
芥溜田圃等ニ投棄スル時ハ其殘毒混同或ハ浸潤シ終ニ傳
播ノ害ヲ醸成スヘキニ付各區内ニ於テ右運搬スヘキ場所
ヲ豫テ撰定シ万一該病流行等ノ際速ニ標示ヲ建他ノ塵芥
等ト混同セサル様可致此旨諭示候事

十一月十一日
十一月十六日
十一月廿六日

一時達

阿波國區戸長へ

明治十年

今般阿波國第一大區五小區富田浦勸工場内へ女工場開設
 相成別冊規則ノ通施行候條此旨相心得ヘキ事
 從來女子ノ風俗タルヤ總テ男子ニ依頼シ更ニ自立ノ念ナ
 ク一朝共依頼ヲ失フ時ハ忽チ自活ノ道ニ離レ糊口ニ窮ス
 ルカ爲メ往々藝舞妓等ノ賤業ニ陥ルモノ鮮カラズ依テハ
 女子タルモノ幼稚ヨリ修身經世ノ業ヲ研究セズンハ有ベ
 カラス今般新ニ女工場ヲ開設シ學齡外女子及ヒ學齡中ト
 雖ヒ貧民並賤業ノ者ハ一切入學ヲ允許シ修身經世ノ業ヲ
 講習セシメ漸次不貞賤業ノ女子無ラシメント欲ス冀クハ
 此意ヲ体認シ勉勵從事セヨ

女工場假規則

第一條 女工場ハ管内華士族平民ヲ論セス總テ女子タル

ノ本務ヲ教授シ且ツ脩身ノ道ヲ研究セシムル所トス其
 場ヲ支分スルコト左ノ如シ

糸製局

織物局

縫針局

脩身局

用度局

第二條 糸製織物縫針ノ女工生徒凡百名ナレハ三十名宛

ヲ本科トシ殘リ十名ハ三科ノ見習トシ漸次本業ヲ授ク
 脩身學ハ本業教授ノ間ニ於テ別ニ時間ヲ定メテ教導ス

ル事

明治十年

- 第三條 糸製織物縫針三局ニハ各正副教師ヲ置キ學科ヲ教授セシムル事
- 第四條 右三局ニハ世話掛二名宛ヲ置キ女工ヲ獎勵シ製品取扱ヲナサシムル事
- 第五條 正副教師ハ日々生徒ノ勤怠ヲ檢シ製作品授業人員等各表面ニ記載シ見認印ヲ捺シ毎月末ニ至リ用掛ヘ送付スヘキ事
- 第六條 用度局ニ用掛正副二名ヲ置キ各局原資品製作品等ヲ始メ諸物品ヲ取扱給料其他ノ金錢出納ヲ擔當セシメ各日表月表ヲ造ラシメ兼テ場中ノ取締ヲナサシムル事
- 第七條 女工生徒ハ滿十五歲以上五十歲以下ト定ムル事

但藝舞妓並遊業ノ者ハ年齡ニ抱ハラヌ總テ入場スヘキモノトス

- 第八條 生徒ハ左ノ四級ニ分チ一級ハ相當ノ給料ヲ與ヘ二級以下ハ給セス其製品ニ應シ褒賞スルコトアリトスル事

- 一級
- 二級
- 三級
- 四級

- 第九條 授業時間ハ毎日九時間ト定ムル事
- 第十條 成業年限ハ滿一ケ年以上トスル事
- 第十一條 入場期限中縁組等ニテ退場セント欲スルキハ

明治十年

其事由ヲ願出許可ヲ受クヘキ事

第十二條 入場セント欲スル者ハ第十八條ニ登記セル願

書ヲ差出シ許可ノ後入場スヘキ事

第十三條 製作品ハ用度局ニ於テ豫テ有志ノ商人ヲ撰ミ

引請サセ共代金ハ成規ノ通上納セシムル事

第十四條 毎日曜日展覽會ヲ開キ製作品ヲ陳列シ品評ノ

上價ヲ定ムル事

但有志ノ者ハ參觀ヲ許ス

第十五條 展覽會ニ於テ製作品ヲ審査シテ其優劣ニ應シ

生徒ノ等級ヲ定ムル事

第十六條 右審査ノ際優等ノ品物ヲ製作シタル向ヘハ毎

月旦褒賞ヲ與フヘキ事

第十七條 三局ニ就テ製作ヲ依頼セント欲スル者ハ何人

ニ限ラス品物ニ仕様書ヲ添ヘ宿所姓名ヲ記シ用度局受

付掛リヘ差出スヘシ該局ニ於テハ品物預リ証ニ製作料

及ヒ出來日限等記シタルヲ渡シ置キ期日至リ依頼人

第十八條 入場願書ノ式左ノ通タルヘキ事

女工入場願 (用紙中折野紙)

私儀今般女工生徒志願ニ付入場ノ儀御許可被成下度尤

御規則ノ旨堅ク相守可申候此段奉願上候也

阿波國何大區何小區何村

何番地居住

何ノ誰長女或ハ姉妹

年 號 月 日

何 誰

七六二

明治何年何月何ヶ年何ヶ月

右父或ハ兄弟(輸入戸主ナレハ親戚若クハ証人進替スヘシ)

戸主何 誰

高知縣權令宛

戸長奥書

工業場生徒取締假規則

第一條

一 生徒入場ハ毎日午前第七時出頭午後第四時退散ノ事
但大祭日及ヒ毎日曜日ハ休暇ノ事

第二條

一出頭退散共勘怠簿へ捺印スヘキ事

第三條

一 生徒登場ノ節ハ用係リヨリ姓名ヲ記シタル木札ヲ受取
教師ニ渡シ敬禮シテ席ニ着クヘシ退出ノ節モ亦敬禮シ
テ教師ヨリ右木札ヲ受取用係ニ渡スヘキ事

第四條

一 生徒工場ニ在リテハ總テ教師ノ指揮ニ隨フヘキ事

第五條

一 受業中ハ行儀ヲ正フシ雜話等ハ必ス致スヘカラサル事
但受業外ト雖モ猥褻ノ話談ハ決シテナスヘカラス

第六條

一起工七時十分ヨリ十二時マテ 休 業 十二時三十分ヨリ

明治十年

七六二

三十五分迄残り十分ハ該局中掃除スヘキ事

第七條

一 官員並掛リ役員巡視ノ節ハ一同敬禮可致事

第八條

一 至急ノ事故アリテ生徒ニ面謁ヲ乞フ者ハ接見所ニ於テ
用係立會ノ上時間ヲ限り應接スヘキ事
但書狀ノ往復ヲ禁ス

第九條

一 生徒疾病事故アリテ不參ノ向ハ其父兄若クハ親戚ヨリ
届出ツヘシト雖モ倘シ言行相反スルキハ金五錢以上十
錢以下ノ謝金ヲ出サシムヘキ事
但謝金ハ資本金ニ充備スル事

第十條

一 一級生徒トハ縫針織物糸製ノ三科トモ總テ上等ノ品物
ヲ製シ得ル者ヲ云フ事

第十一條

一 二級生徒トハ一級ニ亞シ者ニシテ粗三科ニ通スル者ヲ
云フ事

第十二條

一 三級生徒トハ未タ一己ニテ其業ヲナシ得サルモノヲ云
フ事

第十三條

一 四級生徒トハ其業未タ定マラス無能ノ者ヲ云フ事

第十四條

明治十年

一二級以下ハ未タ修業中ニ付給料ヲ付セスト雖モ工職ヲ
勤勵スル爲メ製品ノ優等及ヒ勉強ニ因テ相當褒賞ヲ與
フヘキ事

第十五條

一生徒成業ノ者ニテ教師ノ任ニ至ラサル者ハ相當ノ月給
ヲ與フル事

第十六條

一藝妓舞妓及ヒ遊業ノ者等ハ當分別ニ演習席ヲ設クヘキ
事

第十七條

一總ヲ生徒ハ粗服ヲ用ヒ決シテ花美ノ服ヲ用ユヘカラサ
ル事

第十八條

一生徒ノ衣服ハ成丈ケ工場ニ於テ製作スヘシ其順序ハ用
度局受付掛ニテ差圖ヲ受ヘシ

右條々堅ク可相守者也

十一月 流失品ノ事
十一月 一時違

十月 同

十月 阿波國區戸長ヘ

十月 同

明治十年地租假ニ引方相成損地目今檢査中ニテ減租米賣
確定不致ト雖モ概計ヲ以テ第四期以下割賦ノ節差引假納

可相違候條追テ過不足出來候分及ヒ其他萬一違算ノ廉等

宥之候節ハ總テ新租確定決算ノ節差引可申付候條此旨相

明治十年

七六七

達候事

但十一月一日ヨリ已後本年中損地出來候トモ引方計算不致新租確定決算ノ節差引可申付儀ト豫テ相心得可申

事

十一月廿六日

阿波國各區々兵長へ

人民營業ノ爲メ官林其他官有ノ土地ヲ區分拜借スルハ總テ相當ノ借地料収納可致管ニ付一昨八年十二月廿七日元名東縣番外ヲ以テ九年一月十五日限大區取經ノ可申立旨相達有之處于今端々無願ノ向有之哉ニ相聞不都合候條以來出願ノ分ハ反別並ニ借地料ヲ肥賦シ圖面相添へ可願出旨可爲相心得尤モ從前許可ノ分ニテ無借料或ハ舊慣ニヨリ無屈使用候モノ共同操相心得至急取調可爲差出此旨相

達候事

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

十一月三十日

同

明治十年

七六九

地租及ヒ其他諸税ニモ徴収期限告示ノ上ハ其限日ヨリ前廣ク悉皆收納可致ハ勿論ニ候處兎角期日ニ切迫シテ賸ニ納出候ニ付區務所調理ノ混雜ヨリ延テ納期日ヲ愆ル

阿波國一般へ

條政藏難破船ニ付流失品ノ事

相運分ハ向後遅クハモ期限十日前途區務所ハ悉皆收納候様可致此旨諭達候事

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

十二月一日

今般讀岐國九龜ヨリ阿波國德島市街新町橋際マテ電信線架設相成候ニ付明治七年九月第九十八號電信條例御布告ノ旨モ有之候得共尙心得違ノ者無之様厚ク注意可爲致此旨相達候事
第九十八號
電信條例別冊ノ通相定本年十二月一日ヨリ施行候條此旨
布告候事

明治七年九月廿二日

太政大臣三條實美

日本帝國電信條例略ス

難破舟ノ事

十一年乙百二十三號ヲ以テ改正

流失品ノ事

一時達

流失品ノ事

阿波國各區々戶長へ番外九月十二日附

下同伴ニ付略ス

阿波國沿海區戶長へ

海上衝突豫防規則御施行可相成ニ付明治七年二月以降度

衣御布告相成居候通來ル十一月二日ヨリ蒸氣船日本

形諸商舟共點燈可致萬一心得違有之候ハ不相濟次第三
候條不都合無之様厚意ヲ注意シ諸舟持主共速ニ船燈買入候
様諭示可致此旨相違候事御注意ナラセヨ

十二月 阿波國一殿へ

違式註違條例別冊ヲ通相改來明治十一年一月二日ヨリ施
行候條此旨布達候事

違式註違條例

第一條 違式ノ罪ヲ犯ス者ハ七十五錢ヨリ少ナカラス壹
圓五拾錢ヨリ多カラザル贖金ヲ追徵ス

第二條 註違ノ罪ヲ犯ス者ハ五錢ヨリ少ナカラス七拾錢
ヨリ多カラザル贖金ヲ追徵ス

第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力シ者ハ實決スルヲ左ノ

如シ

一 違式懲役 八日ヨリ少カラス十
五日ヨリ多カラス

一 註違拘留 七日ヨリ多カラス
十五日ヨリ少カラス

但適宜懲役ニ換フ

第四條 違式並ニ註違ノ罪ニヨリ取上ヘキ物品ハ贖金ヲ
科スルノ外別ニ沒収ノ申渡ヲナスヘシ

第五條 違式註違ノ罪ヲ犯シ人ニ損失ヲ蒙ラシムルハ
先ツ其損失ニ當ル贖金ヲ出サシメ後ニ贖金ヲ命スヘシ

第六條 違式ノ罪目ト雖モ情狀輕キ者ハ減等シテ註違ノ
贖金ヲ追徵シ註違ノ罪目ヲ犯ス下雖モ重キハ加等シテ

違式ノ贖金ヲ追徵スヘシ其犯ス所極メテ輕速ニ止ヌ阿
貴放免スルヲアルヘシ

違式罪目

- 第七條 贗造ノ飲食物並ニ腐敗ノ食物ヲ知テ販賣スル者
- 第八條 春藪及ヒ其類ノ諸器物ヲ販賣スル者
- 第九條 病牛死牛其他病死ノ禽獸ヲ知リテ販賣スル者
- 第十條 身體ニ刺繡ヲナス者依頼スル者委頼セラル者
- 第十一條 男女入込ノ湯ヲ渡世スル者
- 第十二條 乘馬シテ猥リニ馳驅シ又ハ馬車ヲ疾驅シテ行
人ヲ觸倒スモノ
- 但殺傷スルハ此限リニアラス
- 第十三條 外國人ヲ無届ニテ止宿セシムル者
- 第十四條 外國人ヲ私ニ雜居セシムル者
- 第十五條 人家稠密ノ場所ニ於テ妄リニ火枝ヲ玩フ者

- 第十六條 火車場ニ關係ナシテ乘馬スル者
- 第十七條 遊戯ニ往來ノ常燈臺ヲ破毀スル者
- 第十八條 牛馬及ヒ車留ノ揭示アル道路橋梁ヲ犯シテ通
行スル者
- 第十九條 男女相撲並ニ蛇遣ヒ其他醜體ヲ見世物ヲ出ス
者
- 第二十條 川堀下水等ニ土芥瓦礫等ヲ投棄シ流通ヲ妨ク
ル者
- 第二十一條 他人分ノ田水ハ勿論組合持ノ田水ヲ斷リナ
ク自恣ニ我田ニ引入ル者
- 第二十二條 他人ノ持場ニ入り筭或ハ草類ヲ無斷採リ去
ル者

- 第二十三條 搗粉場ヲ汚損シ並ニ其圍ヲ破毀スル者
- 第二十四條 堤ヲ壞チ又ヲ斷リテ他人ノ田園ヲ墾ル者
- 第二十五條 道敷内ニ菜蔬豆類ヲ植ヘ或ハ汚物ヲ積ミ往來ヲ妨クル者
- 第二十六條 婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナス者
- 第二十七條 神佛祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナス者
- 第二十八條 往來ニテ死牛馬ノ皮ヲ剥キ肉ヲ屠ル者
- 第二十九條 他人ノ墓碑ヲ毀損スル者
- 第三十條 官有ノ山林等ニ禁制ヲ榜示アルヲ犯セシ者
- 第三十一條 御用ト書キタル小旗挑燈等ヲ免許ナク狼リニ用ル者

- 第三十二條 他人ノ舟ヲ無斷掉シ遊フ者
- 第三十三條 官有或ハ他人ノ山林田畑ニ入り植物ヲ損害スル者
- 第三十四條 神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者
- 第三十五條 神佛祭禮等ノ節世話人等強テ出費ヲ促カス者
- 第三十六條 男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ或ハ奇怪ノ粉飾ヲナシ異体ヲナス者
- 第三十七條 制禁ノ場所ニテ竹木ヲ伐リ魚鳥ヲ捕ル者
- 第三十八條 格子ヲ撥キ塙ヲ攀テ徒ラニ顔面ヲ出シ往來人ヲ嘲弄スル者

誣違罪目

- 第三十九條 夜中無挑燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者
- 第四十條 馬車及ヒ人力車荷車等ヲ往來ニ置キ行人ノ妨
ヲ及ビ及ヒ牛馬ヲ衝倒ニ横タベ行人ヲ妨クル者
- 第四十一條 禽獸ノ死骸或ハ汚穢ノモノヲ往來等ニ投棄
スル者
- 第四十二條 婦人ニテ謂レナル斷髮スル者
- 第四十三條 下掃除ノ者蓋ナキ箕桶ヲ以テ搬運スル者
但市外ハ此限ニアラズ
- 第四十四條 旅籠屋渡世ノ者止宿人名記載セス或ハ之ヲ
届ケ出サル者
- 第四十五條 往來筋ノ號札又ハ人家ノ番號名札看板等ヲ

- 戲ニ破毀スル者
- 第四十六條 喧嘩口論及ヒ人ヲ自由ヲ妨ケ且ツ驚愕スヘ
キ噪鬧ヲ爲シ出セル者
- 第四十七條 往來常燈ヲ戲ニ消滅スル者
- 第四十八條 糞忽ニヨリ水ニ汚穢物及ヒ石礫等ヲ抛澆セ
ル者
- 第四十九條 田園種藝ノ路ナキ場ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽
入レル者
- 第五十條 荷車及ヒ人力車等ヲ並ニ挽キテ通行ヲ妨タル
者
- 第五十一條 誤ニテ牛馬ヲ放テテ人家ニ入レシメシ者
- 第五十二條 犬ヲ飼ハシメ及ヒ戲ニ人ニ噛スル者

- 第五十三條 巨大紙鳶ヲ揚ケ妨害ヲナス者
- 第五十四條 雜魚乾場ニ妨害ヲナス者
- 第五十五條 海苔乾場ニ妨害ヲナス者
- 第五十六條 醉ニ乘シ又ハ戲ニ車馬往來ノ妨害ヲナス者
- 第五十七條 養田水其外用水ニ妨害ヲナス者
- 第五十八條 水除杭ニ妨害ヲナス又ハ之ヲ拔取ル者
- 第五十九條 他人ノ獵場ニ妨害スル者
- 第六十條 他人ノ植籬牆垣ヲ損害スル者
- 第六十一條 渡シ舟ニテ不當ニ賃錢ヲ取リ或ハ等閑ニ行人ヲ待シメ用便ヲ妨クル者
- 第六十二條 往還口並木及ヒ苗木ヲ徒ニ害スル者
- 第六十三條 渡舟橋梁ノ賃錢ヲ不拂シテ去ル者

第六十四條 誤テ牛馬ヲ放テ他人ノ田圃及ヒ物品ヲ損害スル者

- 第六十五條 狼狽ニ他人ノ爭論ニ荷擔スル者
- 第六十六條 故テテ他人ノ合力等ヲ申掛ル者
- 第六十七條 他人ノ墳墓等ノ供品類ヲ猥ニ毀損スル者
- 第六十八條 永車水碓等ニ妨害ヲナス者
- 第六十九條 往人ニ強テ車馬駕籠等ヲ勸メ過言ヲ申掛ル者
- 第七十條 他人ノ藤網ニ妨害ヲナス者
- 第七十一條 山林原野ニテ徒ニ火ヲ焚ク者
- 第七十二條 總テハ標柱ニ牛馬ヲ繫ル或ハ毀損スル者
- 第七十三條 橋柱ニ舟筏ヲ繫ク者

- 第七十四條 神祠佛堂又ハ他人ノ垣壁等ニ樂書ヲナス者
- 第七十五條 田圃中ニ瓦礫竹木等ヲ投入シテ汚損者
- 第七十六條 遊園及道路傍ノ花木ヲ折リ或ハ植物ヲ害スル者
- 第七十七條 軒外へ木石炭薪其他諸物品ヲ願ナシ積置ク者
- 第七十八條 湯屋渡世ノ者戸口明ケ放チ或ハ二階ニ見隠シテ糞ヲ垂レサル者
- 第七十九條 住宅前掃除ヲ怠タリ或ハ下水ヲ浚ハサル者
- 第八十條 市中往來筋ニ於テ便所ニ非ラサル場所へ小便スル者
- 第八十一條 店先ニ於テ往來ニ向ヒ幼稚ニ大小便ヲサセ

- 第八十二條 六尺以上ノ長綱ヲ以牛馬ヲ牽ク者
 - 第八十三條 裸体又ハ袒裼シ醜体ヲナス者
 - 第八十四條 酩酊シテ道路ニ倒レ或ハ行人妨ケ罵リ迷惑ヲ掛ル者
 - 第八十五條 往來ニテ放歌吟聲スル者
 - 第八十六條 腐敗物ヲ貯ヘ往來へ臭氣ヲ泄レシムル者
- 十二月十九日 阿波國各區々戸長ニ於テ此等ノ事項ハ自今諸願届届上申書差出候節ハ必ス其要旨ヲ撮リ何々之願届届書面初行へ記載候様可致此旨相達候事
- 十二月廿二日 一時達

十一月十八日 難破舟ニ付流出品ノ事
 十一月十九日 一時達
 十一月廿七日 阿波國各區々戶長
 地券賣買讓受等書替願出候書式ハ豫テ達置候處落印或ハ
 郡村名月日ノ認落又ハ願書ト券面ト字反別姓名等不引合
 之カ爲メ時日遷延畢竟人民ノ迷惑ニ可立至候條當人注意
 可致ハ勿論ニ候得共戶長與書調印ノ際精密遂調査爲指出
 候様屹度注意可致此旨相達候事
 十一月廿六日 漂流舟ノ事
 十一月廿六日 一時達
 十一月廿六日 同

十二月廿六日 同

阿波國各區々戶長へ

從前貢米上納ニ付手本米差出方ノ儀追々相達置候次第モ
 有之候處本年第八十號ヲ以テ地租金代米納差許候付テ
 ハ自今左ノ通相心得可申此旨相達候事
 手本米差出方心得
 一 代米納願出候村方ハ手本米貳合程宛左書雛形ノ通堅半
 ノ紙袋ニ入レ區戶長連署書面相添共代米納許可候タル
 即日通置候七日以内ニ必可差出候尤右手本米吟味
 以上其村柄適當ノ分ハ留置正米藏所納ノ節引當テ手本
 米ヨリ劣リ候分ハ収納不相成候條此旨相心得精覈取調
 可差出候事

但本文手本米ノ儀ハ追テ代米納濟ノ上可下戻候事

(紙袋表面)

明治何年分地租代米納 阿波國何大區何小區 何村

手本米貳合入

右區 區長 何 誰 印

戶長 何 誰 印

副戶長 何 誰 印

(副書)

代米納手本米進達

阿波國第何大區何小區

一米貳合程

但別袋入

右者明治何年分田方地租ノ内代米納御許可ニ相成候ニ付
追テ該村ヨリ上納可仕手本米取調候處聊相違無之候ニ付
豫テ進達仕置候也

年月日

正副戶長 連印

區長 誰 印

長官宛

一 時 達

二 月 廿 九 日

三 月 十 二 日

四 月 廿 八 日

漂流舟ノ事

阿波國各區々戶長へ

本年第五十三號同第七十九號ヲ以テ地租徵収期限及租

明治十年

稅未納人處分規則等改定御布告三付等、每期取調ノ都合有之候條未納仕譯書其他共左書ノ通相心得別紙雛形ニ照準シ每期無遲延可差出此旨相違候事

一租稅收納期限ヲ愆リ候者ハ甲印雛形ニ準シ稅目限リ取調期限後五日以内ニ可差出事

一右同期限後納出ル節ハ乙印雛形ニ準シ稅目限各名金員書職納証ニ添ヘ可差出事

一右同期限後三十日ヲ過キ尙未納人有之節ハ更ニ丙印雛形ニ準シ稅目限リ取調右三十日後五日以内ニ可差出事

一何稅未納仕譯書取調ノ節ハ此旨相違候事

明治何年何月何日限納ノ分 阿波國第幾大區幾小區

一金何程

內金何程

殘金何程

何村

既納

未納

此譯

金何程

何村

同

何誰

同

何誰

同

何誰

同

何誰

同

何誰

同

何誰

同

何誰

同

何誰

明治十年

七八九

金何程 但事故云々

右何稅未納仕譯書面之通有之候也

年月日

權令宛

何稅期限後上納人別書

副 戸 長 印

乙

明治何年何月何日限納ノ分 阿波國第幾大區幾小區

一金何程

内

金何程

何 誰

金何程

何 誰

年月日

權令宛

何稅期限後三十日ヲ過キ尙未納者御届

副 戸 長 印

丙

明治何年何月何日限リ納ノ分 阿波國第幾大區幾小區

一金何程

内

金何程

期限内上納濟

明治十年

期限三十日
未納

金何程
殘金何程
此小譯

幾大區何小區何村
何誰

金何程

同村

何誰

金何程

同村

何誰

金何程

同區同村

何誰

右之通未納ニ付御届仕候也

年月日

副 戶 長 印
戶 長 印

權令宛

廿八日 一時達

○明治十一年高知縣布達要約

甲號ノ部

甲第壹號	甲第貳號	甲第參號	甲第肆號	甲第伍號	甲第陸號	甲第柒號	甲第捌號	甲第玖號	甲第拾號	甲第拾壹號	甲第拾貳號	甲第拾參號	甲第拾肆號	甲第拾伍號	甲第拾陸號	甲第拾柒號	甲第拾捌號	甲第拾玖號	甲第貳拾號
一九一七年七月一日	一九一七年八月一日	一九一七年九月一日	一九一七年十月一日	一九一七年十一月一日	一九一七年十二月一日	一九一八年一月一日	一九一八年二月一日	一九一八年三月一日	一九一八年四月一日	一九一八年五月一日	一九一八年六月一日	一九一八年七月一日	一九一八年八月一日	一九一八年九月一日	一九一八年十月一日	一九一八年十一月一日	一九一八年十二月一日	一九一九年一月一日	一九一九年二月一日
一時達	一時達	阿波國へ告諭	一時達	土佐國へ亥第四百三拾四號中濁酒ノ廉剛除	一時達	土兩國一般へ	阿兩國一般へ	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但	以酒類稅則追加公布相成候ニ付從前酒類受賣免許之者ハ卸小賣ノ區別相立本月限更ニ可願出但

明治十一年

七九五

今後看板之儀ハ仰小賣ノ區別判然ト認替戸外掲揚可
申此旨布達候事

甲 第 八 號 十 一 月 阿 土 兩 國 一 般 へ

客年第八十一號ヲ以酒類稅則改正追加公布相成候ニ付飲
食店等ニテ酒類ヲ買入置來客ニ供スル者モ酒類受賣鑑札

可願請旨大藏省ヨリ達有之候條此旨布達候事(十二年甲第四十
七號參看)

甲 第 九 號 十 一 月 阿 波 國 へ ○

甲 第 拾 號 十 一 月 土 佐 國 一 般 へ

明治八年十二月亥第四百三十四號ヲ以縣稅徵収及諸營業
鑑札授與ノ儀布達ニ及置候處總テ營業ニ付支店ヲ開カシ

ト欲ル者ハ更ニ本店同様ノ手順相立出願ニ可及此旨布達
候事

甲 第 拾 一 號 十 一 月 阿 土 兩 國 一 般 へ

烟草仕入並出賣鑑札酒類行商鑑札願出候節其家族ノ外ハ
戶籍法ニ依リタル雇人ニ限り下付候條出願ノ都度尙ホ區

戶長ニ於テモ注意可致此旨布達候事(十二年甲第四十
七號參看)

甲 第 拾 二 號 十 一 月 阿 土 兩 國 一 般 へ

藥湯及藻風呂營業致度者ハ自今左書式ニ照準願書並藥味
相添可差出此旨布達候事

但從來營業許可ノ者トイヘ本本文同様願書並藥味相
添來ル二月廿八日限り更ニ可願出事

用紙美濃紙

願書式

明治十一年

藥湯營業願

一何湯

藥味ノ量

製法書

溫度

入浴度數

主治功能

年中ノ季節ニ隨ヒ溫度ノ緩猛ヲ詳記スヘシ
老幼或ハ身體ノ強弱ニヨリ入浴度數ノ加減
或ハ幾週間ニ至リ効驗アル等詳記スヘシ
右ハ(此般營業仕度)或ハ(從來營業仕)候ニ附御檢査ノ上御差
支無之候ハ、御免許被成下度依テ藥品相添此段奉願候也

明治 年 月 日

高知縣何國何大區何小區
何郡何町番地

士族或ハ平民 姓名 印

右區戶長

姓名 印

長官名宛

藻風呂營業願

一藻風呂

製法書

但藥味ヲ調和スレハ其分量ヲ書載スルヲ藥湯ノ例
ニ倣フ

溫度藥湯ノ例ニ倣フ入室度數同上

右ハ(此般營業仕度)或ハ(從來營業仕)候ニ付御差支無之候ハ
、御免許被成下度此段奉願候也

以下前書式と同シ
但藥味ヲ糶ニ和ス(此モノ御免許被成下度ノ下(依

甲第拾四號 十一月十五日 一時達

甲第拾五號 十一月十七日 一時達

明治十年太政官第七十九號御布告ニヨリ租稅民費等ヲ不納セシモノ、財産ヲ公賣スルトキハ左ノケ所へ揭示致ス
ヘク候條爲心得此旨布達候事

一支廳前寺島橋際揭示場
一其小區内揭示場

甲第拾六號 十一月十九日 一時達

甲第拾七號 十一月十九日 一時達

甲第拾八號 十一月廿一日 一時達
阿波國入

甲第拾九號 十一月廿九日 一時達
今般違式註違條例施行ニ付テ本年甲第三號ヲ以諭達及

比之趣モ候處特リ下掃除ノモノニ於ル從來ノ陋習ニテ
甲多クハ汚穢物汲取柄抄ヲ以糞桶擔棒ニ兼用候ノミナラス
甲現ニ其汚穢物ニ染ミタル儘ヲ以擔行候ヨリ行人ノ衣服等

ニ觸レ又ハ路上ヲ汚ス等ノ儀間々有之哉ニ相聞乃チ糞桶
ニ蓋シタルモ其甲斐ナキニ屬シ且其體験ニ於ルニ醜汚ノ
甲極メニ付自今右様ノ習俗ハ速ニ改良スヘキハ勿論ニ候依

甲テ本年二月廿八日限り屹度可相改候若シ同日己後ニ至リ
甲不相改モノ有之於テハ該條例中糞桶ニ蓋セサルモノニ擬
シ相當ノ處分可及候條心得違無之様厚ク注意可致此旨布

達候事

甲 第貳拾 號 二月 一日 時達

甲 第貳拾 壹 號 二月 一日 時達

甲 第貳拾 貳 號 二月 一日 時達

諸遊藝營業濟鑑札返上之節願書ニ認テ差出來候處今後ハ
届書ニ鑑札相添返上可致此旨布達候事

甲 第貳拾 三 號 二月 一日 時達

甲 第貳拾 四 號 二月 一日 時達

捕魚採藻ノ儀ニ付明治九年一月第拾四號ヲ以テ舊名東縣ヨ
リ相達シタルハ明治八年太政官第百九拾五號御布告ニ因
リ漁業等差止め候テハ難澁致スヘクハ必然ニ付差向漁業
ノ儀ニ付從來之通致サセ候譯ニテ海面處用ノ權ヲ當分繼續

セシメタル儀ニ無之候條心得違無之條可致此旨布達候事
附リ從來此布達ニ矛盾スル指令等ハ總テ廢止トス

甲 第貳拾 五 號 二月 一日 時達

土佐國川々堤防等工事ノ儀ハ村方請負又ハ官ヨリ仕成申
付來候處今般更ニ詮議ノ上本年定式修繕ノ際ヨリ試トシ
テ左ノ通施行候條此旨布達候事

第一條

川々堤防等工事ノ儀ハ凡テ村方請負仕成スルヘシ

第二條

村方請負ハ凡テ二種トシ尋常請負ト別途請負ト名義ヲ分判
尋常請負ハ一切從前一人役官米一舛代價ノ外割付夫差引
金ヲ如クシ別途請負ハ從前ノ官仕成ニ準シ夫料金一役入
給ス

明治十一年

米一舛代價ノ外割付夫差引相殘ル夫増與ズル者トス
一八ニ付二舛五合代價ノ夫料金ヲ給ス夫増與ズル者トス

第三條

凡テ二種ノ名義ヲ以村方請負申付ル上ハ自今他所ニ出役
スル事ナシ依テ從前ノ民費所出役上ハ打金官納スルヲ減省
シ一人ニ付貳舛五合代價ノ夫料金ヲ官納致サセ別途請負
ノ部分ニ充ツヘシ

第四條

割付夫及ヒ夫料金諸色代等賦課法凡テ慣行ヲ通タルヘシ

第五條

村方請負修繕中官吏派出致サセ置候ニ付落成ノ分ハ速ニ
檢査ヲ受クヘシ

第六條

必用ノ鎮道具村方ニ於テ仕備ヘ無之向キハ別途請負ノ部
分ヘ割賦ヲ以修繕中貸渡ヘシ

但別途請負ノ部分ヘ貸渡殘餘有之キハ尋常請負ノ部
分ヘモ本文同様貸渡ヘシ

第七條

非常ノ災害ニテ別途請負ニモ難堪事情ニ立至リ候キハ從
前之通り官營取計候儀モアルヘシ

第八條

請負制限左ノ如シ

貢租高貳千石以上ノ村方

同貳千石未滿千石迄

未滿尋常請負
以上別途請負

同千石未滿五百石迄	六千人	未滿
同五百石未滿貳百五十石迄	三千人	未滿
同貳百五十石未滿百貳拾五石迄	千五百人	未滿
同百貳拾五石未滿六拾三石迄	三百八拾人	未滿
同六拾三石未滿三拾貳石迄	百九拾人	未滿
同三拾貳石未滿拾六石迄	九拾六人	未滿

甲 第貳拾六號 以上

米佛博覽會出品等ニ付諸職工ノ請求ニ應シ海外需用品ノ

流行及本人ノ技術ヲ斟酌シ該事務局ヨリ圖式ヲ製シ貸與

相成候分此節内務省勸商局ヘ引繼相成候ニ付向後博覽會

出品ニ不抱海外販賣ヲ見込諸品製造致候者其工案決シ

カタキ向ハ勿論或ハ相應ノ圖式ヲ望候向ヘハ精々時ノ流

行ヲ考ヘ製圖下附相成尤其製品ノ品種書並ニ本人ノ工案有之者ハ其略圖等相添申出候様該局ヨリ通知有之候條爲心得此旨布達候事

甲 第貳拾七號 二月八日 一時達

甲 第貳拾八號 二月九日 全

甲 第貳拾九號 二月九日 全

甲 第 三拾號 二月十五日 土佐國一般へ

宿屋並ニ諸酒食店等ノ儀ニ付九年子甲第七拾八號ヲ以テ布達置候處頃日煮賣商支度屋等ニシテ料理商類似ノ營業ヲ爲スモノ有之哉ノ趣右ハ取調ノ上追テ可相達筋モ有之候得共煮賣商等ニテ料理商ノ業體ハ不相成候條心得違無之様可致仍テ料理商並貸座敷免許人者ハ其營業中ハ晝夜

ノ別ナク左ノ雛形ノ招牌ヲ店頭へ掲ケ可申此旨布達候事
一但招牌ハ免許ノ都度可下渡廢業ノ節ハ速ニ返納可致尤
從來免許ノ者ハ區戶長ヲ經テ第三課へ受取方可申立事
長三尺一寸 幅九寸五步

免	番號烙印
許	料理席 或ハ貸座敷

裏	縣國名大小區地名番地
	何之誰

甲 第 三拾壹號 二月十五日 土佐國一般へ
明治十一年 八〇九

子甲第五拾五號布達店頭檢印札ノ内貸座敷且料理屋ノ兼
並ニ子規第三號布達貸座敷規則第一條但書共刪除

甲第三拾貳號 十二月九日 欠

甲第三拾三號 十二月八日 一時達

甲第三拾四號 十二月九日 阿波國一時達

甲第三拾五號 十二月九日 土佐國一殿へ

土佐國川ノ堤防等村方請負ノ儀ニ付本年甲第貳拾五號ヲ
以布達候處右工事ニ相用ヒ候木材間尺等ノ儀ハ左ノ通候
條今后請負申付候節不都合無之様豫メ注意可致此旨布達
候事
一 單棹一組 長貳間半
一 右入用 長貳間半

桐木一本 長貳間半
扣木三本 長四尺六寸半
立杭五拾本 長四尺五寸

一 土臺棹一組 長貳間半 高四尺

右入用 長四尺六寸半
桐木貳本 長六尺六寸半
扣木六本 長四尺五寸
柱木六本 長五尺五寸
桁木貳本 長貳間三寸半
敷桁七本 長貳間三寸半
立杭百七本 長壹尺三寸半
繩貳房半 長壹尺三寸半

明治十一年

一千尻棒五組

右入用

頭木拾本

扣木貳拾本

柱木拾本

カッキ胴木貳本

桁木六本

敷桁三拾本

立杭百五本

同七拾五本

一千尻棒五組

細拾房

長五間
幅高九尺

長八尺七寸
長七尺四寸
長六尺五寸
長五尺四寸

長六尺三寸
長五尺二寸
長四尺一寸

長五尺一寸
長四尺
長三尺

長五間
幅高九尺

右入用

頭木拾本

扣木貳拾本

柱木拾本

カッキ胴木貳本

桁木六本

敷桁三拾本

立杭百五本

同五拾本

細拾房

一千尻棒一組

右入用

明治十一年

長八尺七寸

長七尺四寸

長六尺五寸

長五尺四寸

長四尺三寸

長三尺二寸

長二尺一寸

長一尺

長八寸

長七寸

長六寸

長五寸

長四寸

長三寸

長二寸

長一寸

長八分

長七分

長六分

長五分

長四分

長三分

長二分

長一分

長八厘

長七厘

長六厘

長五厘

頭木四本

床持木壹本

貫木八本

敷桁拾五本

立杭百貳拾本

繩五房

一四

右入用

頭木四本

貫木十貳本

床持木壹本

敷桁拾五本

一房

口壹

三寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

長四尺

宋口壹

四寸

立杭九拾本

繩五房

一催

右入用

頭木八本

貫木貳拾本

床持木三本

敷桁四拾五本

立杭貳百八拾五本

繩拾三房半

一催

右入用

頭木八本

貫木貳拾本

床持木三本

敷桁四拾五本

立杭貳百八拾五本

繩拾三房半

長四間半內法高九尺

長四間半內法高九尺

頭木八本
 貫木三拾本
 床持木三本
 敷桁四拾五本
 立杭貳百拾本
 繩拾三房半
 蛇籠壹本
 右入用
 竹拾五本
 一筋龜桑仕成
 右入用
 龜桑五束

長壹丈七寸
 長壹丈四寸五步
 長壹丈四寸
 長壹丈三寸
 長壹丈二寸
 長壹丈
 長壹丈
 長壹丈
 長壹丈
 長壹丈

目通四寸
 壹房貳拾尋
 長五間徑壹尺五寸
 目通四五寸回
 延間拾間分
 四尺打進五尺繩

竹拾本
 繩貳房
 一杭柵仕成
 右入用
 目通四寸
 壹房貳拾尋
 延間拾間分

甲第三拾六號 廿二月廿一日 長五尺
 甲第三拾七號 廿二月廿一日 長四尺五寸
 甲第三拾八號 廿二月廿一日 長四尺半
 甲第三拾九號 廿二月廿六日 長四尺
 甲第四拾號 廿二月廿六日 長四尺

齒桑三束
 小桁三束
 杭四拾本
 右入用
 本年甲第三百五號ヲ以テ改正
 土佐國へ
 一時達

甲第四拾壹號 廿七日 一時達
甲第四拾貳號 廿七日 阿波國一般へ

明治八年舊名東縣第百拾貳號達シ質地屆書式中質入届ハ
質地届地處々有ハ地所耕作ニ更正候條此旨布達候事

甲第四拾三號 廿七日 阿波國一般へ

官有地ニ生産スル動物植物或ハ土石其他一切ノ土地拜借
拂下又ハ水面埋立等出願ノ際繪圖差添無之向問々有之調
査差問候條以降出願ノ都度該地ハ勿論近況ヲモ詳細記載
ノ圖面正副相添可願出此旨布達候事

甲第四拾四號 廿七日 〇

甲第四拾五號 廿七日 一時達

甲第四拾六號 廿七日 阿波國一般へ

軍人軍屬ヨリ官物ニ類スル品賣却致度段相談ニ預ルト雖

モ人民ニ於テ一切買請不相成候條此旨布達候事

甲第四拾七號 九月 阿波國一般へ

酒類請賣ノ儀ニ付本年當廳甲第七號ヲ以及布達置候處共

卸小賣業體ノ區別ハ石數ノ多少ヲ不論同業ノ者へ販賣ス

ルヲ卸賣ト可相心得此旨布達候事

甲第四拾八號 十五日 一日達

甲第四拾九號 十九日 〇

甲第五拾號 十九日 土佐國一般へ丑規第四拾八號取消

甲第五拾壹號 廿一日 阿波國一般へ

明治九年六月十五日舊名東縣第百三拾九號ヲ以テ布達候

商業其外並與行諸稅規則第四條左ノ通追加候條此旨布達
明治十一年 八二九

候事

諸稅規則第三則

第四條

一改名代換或ハ轉住等ニテ免許鑑札書換願出候節ハ手數料トシテ金拾五錢可相納事

甲第五拾貳號 廿三月一日 一時達

甲第五拾三號 廿三月一日 土佐國沿海各區一般へ

本年甲第三拾七號ヲ以テ漁市場假規則布達ニ及ヒ置キ候處右規則中左ノ條々更正候條此旨布達候事

第四條

但書中(漁業人ノ認許ヲ請ケ該區務所ニ届出ツ)ノ十七字ヲ除キ(漁物取扱人ノ認許ヲ受)ノ十一字ヲ插加

第五條

漁市場ニ於テ云々取扱人ヲ置ヘシノ下ニ(若シ土地ニ依リ止ムヲ得サル情實有之ニ於テハ協議ノ上一人ヲ置クモ妨ナキモノトス)ノ三拾六字ヲ追加

第八條

漁市場ニハ必ス漁物賣立牒面ヲ製シ置クベシ印稅規則ニ照ラシ印紙貼用勿論タルヘシト改正
但書從前ノ通

第十條

魚商人ノ漁市場ニ於テ買取タル魚價ハノ下(五日以内共速ナルハ名々ノ勝手タルヘシ)ノ十八字ヲ除キ(漁業人ト協議ノ上五日以内ノ定期ヲ約シ置キ右期日ヲ誤ラス)ノ

明治十一年

二十五字ヲ挿加

第拾壹條

夜中云々相當代價ノ鑑定ヲ受シ後チハノ下(他ニ)ノ二字ヲ除キ(各自)ノ二字ヲ挿加

第拾貳條

魚商人ノ云々若シ資産ナキモノハノ下(漁物取扱人及ヒ漁業人ニ協議シ漁價ノ辨償ヲ怠ラサル稜適宜ノ定約ヲ結ヒ証書ヲ漁物取扱人ニ差出シ置クヘシ譬ハ組合ヲ立ル者ハ一人ヲリトモ怠償スルモノアレハ其組合ヨリ辨償スヘシ其辨償ヲ了ラサル間ハ組合ノモノ凡テ漁市場ニ立ツト得スト改正

甲 第五拾四號 廿一月 土兩國一般へ

當縣内ニオイテ銘酒燒酎味淋濁酒等ノ類釀造免許ノ者毋シ就中燒酎ハ清酒釀造免許ノ者ニシテ蒸溜スルモノアリト雖酒桶手入方而已ニ相用候趣右ハ不苦候得共萬一右等ノ種類ヲ釀造シ聊ニテモ販賣致候者有之時ハ即チ犯則ニ付心得違無之様其種類ニ應シ免許鑑札可願出此旨布達候事

甲 第五拾五號 欠

甲 第五拾六號 廿三月

甲 第五拾七號 廿三月

土兩國一般へ

學費出納規則左之通制定來ル五月ヨリ施行候條此旨布達候事(本年甲第四拾七號參看)

學費出納規則

第一條

明治十一年

學費ハ總テ各區區務所ニ徵收シ其現金出納ハ區戶長學區
取締學校周旋係リ及區内公撰人等ニ於テ之ヲ專擔スルモ
又ハ之ヲ分擔スルモ該區學事關係ノ諸職員ノ協議ト人民
ノ情態ニ依リ各區ノ便宜ニ任スル者トス

第三條

出納擔任者ハ左ノ帳簿ヲ保管シ日々出納ヲ詳記スベシ

- 一 學資金有高帳
- 一 寄附金受取帳
- 一 文部省補助金受取帳
- 一 其他諸入金受取帳
- 一 教員及諸給料渡帳
- 一 書籍器械買入帳
- 一 諸雜費明細帳

第三條

- 一 書籍貸附帳
- 一 生徒名簿
- 一 出納表綴込
- 一 區内集金受取帳
- 一 生徒受業料受取帳
- 一 積金貸附帳
- 一 學校營繕費拂帳
- 一 薪炭油買入帳
- 一 書籍器械根居帳
- 一 教員及役員名簿
- 一 諸取扱書類綴込

數校ノ出納ヲ擔任スル者ハ前條每帳簿中明ニ各校ヲ部分
シ計算錯雜セサル様注意スベシ

第四條

第貳條ノ諸帳簿ハ出納擔任者ニ於テ事務ノ都合ニ依リ適
宜増減スル事ヲ得ベシ

第五條

各小區區務所ニ於テ每月三日限リ別紙雛形ニ倣ヒ前月分
ノ公學費出納表ヲ製シ全月十五日限リ之ヲ縣廳阿波國ハ
德島支廳第五課へ進達及各掲示場へ掲示スベシ
但該表原紙ハ縣廳ヨリ配附スベシ

第六條

區内何人ニテモ學費出納ノ事ニ附解シ難キ事アルトハ其

擔任者或ハ該區學事關係ノ職員ニ就テ直ニ之ヲ質問スル
事ヲ得ベシ

第七條

縣廳第五課ニ於テハ年々管内公學費出納表ヲ製シ一般へ
報告スベシ

甲第五拾八號

廿三日

土阿兩國一般へ

師範學校生徒募集及各區學事之形狀等自今本廳第五課阿
波國ハ德島支廳第五課ヨリ報告爲致候條爲心得此旨布達
候事

甲第五拾九號

廿五日

土佐國一般へ

賣淫取締之儀ニ附テハ兼テ及布達置候次第モ有之候處頃
日采引内外料理屋旅人宿牛肉店等ニ於テ曖昧ノ婦人ヲ召

明治十一年

抱無鑑札ヲ以テ賣淫致候者有之哉ニ相聞右ハ風俗ヲ亂ル
廉耻ヲ不存所業ニシテ不容易儀ニ付見當次第本人ハ勿論
其宿主ニ於テモ屹度取調之上相當可及處分候條心得違無
之様可致此旨布達候事

甲 第六拾號 廿七日 一時達

甲 第六拾壹號 廿八日 兩國一般へ

轉宗改式之節承認書授受之儀ニ付九年一月第二號ヲ以舊教
部省達之次第有之候處向後廢止相成候條渾テ壬申六月第百
九拾貳號七年二月第拾三號公布之通相心得自今轉宗改式之
者ハ是迄葬祭受持之者へ及通知置共旨土佐國ハ本廳阿波
國ハ支廳へ可届出此旨布達候事
但同宗派ニテ甲乙相轉シ候モ同様タルヘシ

甲 第六拾貳號 廿八日 土佐國一般へ

客年十二月甲第九拾八號ヲ以從來開業ノ醫師履歷書届漏
之者等本年一月廿日限可差出旨及布達置候處右期限ヲ超
過シ遷延候事由ヲ以テ干今出願候向往々有之就テハ事實
不得止分ニ限リ特別ノ詮議ニ及候儀モ有之候得共來ル四
月三十日ヲ過キ願出候者ハ情狀ヲ願ニス斷然願書却下候
條右等ノ情實有之者ハ必ス該日迄ニ可及出願此旨更ニ布
達候事

甲 第六拾三號 三十日 一時達

甲 第六拾四號 四日 告諭

甲 第六拾五號 四日 同 一時達

甲 第六拾六號 四日 一時達

明治十一年

甲第六拾七號 四月二日 一時 達
 甲第六拾八號 四月四日 土佐國へ大日本電信取扱規則
 甲第六拾九號 四月四日 阿波國一般へ

今般藍砂糖檢査係相廢右事務ノ儀ハ各小區戶長ニ於テ取扱候條明治九年六月舊名東縣第三百十九號ヲ以布達相成候諸營業取締規則中左ノ條々改正増補候條此旨布達候事

營業取締規則中

第一則

第一條 甲第一條ヨリ第六條ヲ以テ本年

第二條

第三條

第四條

第五條

第六條

第七條

第二則中

第一條

一各小區受持取締役員ヲシテ製造場ヲ時々巡回致サセ偽品混淆等無之様取締爲致候事

第二條

一砂糖製造人及商人共通簿ヲ製シ毎年十月ヲ期トシ取締役員ノ改ヲ受ケ第二課へ差出可申事

但通簿製シ方手續等從前ノ通

第三條

明治十一年

一製造砂糖運搬ノ節取締役員へ申出検査ノ上送証ヲ申受
商人へ荷着ノ節賣買通簿へ右送証ヲ添へ其區取締役員
へ差出可申事

但通簿ハ割印ノ上下付送り証ハ取締役員手元へ引上
候事

第四條

一砂糖商人賣買簿送証引合ノ上検査濟切符取締役員ヨリ
相渡候事

但切符貼用方ハ従前ノ通

第五條 本年甲第百三號ヲ以テ改正

第六條

一製造人他縣へ直輸出ノ節ハ其受持取締役員へ申出検査

上前同切符貼用ノ上輸出可致事

第七條

一他縣ヨリ輸入ノ節受持取締役員へ元仕入仕切書ヲ以テ
届出検査ノ上通簿へ記載シ前同斷切符貼用ノ上販賣可
致事

甲第七拾號四月 土佐國一般へ

明治十年六月十三日附丑規第五十號ヲ以及布達候屠牛規
則並肉商心得書中違犯罰則ニ涉ル條ハ違式註違例ニ讓リ
左ノ通改正候條猶亦心得違無之様可致此旨布達候事

屠牛取締規則中

第十七條 注意スヘシノ下十四字削除

第十九條 削除

明治十一年

第廿壹條 削除

牛肉商心得中

第三條

牛肉商ハ病死肉及ヒ腐敗等ニ厚ク注意スヘシ

第七條

削除

甲第七拾壹號

五月四日

○

甲第七拾貳號

五月四日

土佐國一般へ

土佐國村々堤防等官普請所人足飯米代價ノ儀ハ當分ノ中
昨年ノ通一石ニ付金四圓五拾三錢貳厘替ヲ以テ相渡候條
爲心得此旨布達候事

甲第七拾三號

五月四日

阿波國一般へ

縣稅課目ノ各種兼業ノ儀ニ付明治九年第五百五十四號ヲ以
舊名東縣ヨリ及布達置候處自今相廢渾テ一戸一人ニシテ

縣稅課目中ノ物品數種ヲ賣買營業スル者ハ本業兼業ヲ問
ハス稅額ノ多キ者一種ノ免許鑑札ヲ下付シ該稅徵收候條
出願ノ都度其種類ヲ詳悉記載可致此旨布達候事

本年甲第百二號ヲ以テ但書追加

甲第七拾四號

八月四日

土佐國一般へ

八年亥第百六十九號ヲ以テ及布達候逗留及寄留人取締規
則中子甲第三十九號ヲ以テ改正候但シ書ノ中左ノ下二十
四字ヲ刪除シ更ニ官吏ニ限り本籍戸長ノ允証ト保証人等
ヲ要セサルノミニテノ廿六字ヲ嵌入候條此旨布達候事

甲第七拾五號

十一月四日

阿波國一般へ

諸營業願屆等ノ儀戸主ニ非サル者ハ戸主連署ヲ以差出候
據明治九年舊名東縣第百十貳號ヲ以相達候處自今變舞妓

明治十一年

娼妓ヲ除クノ外諸營業願屆等總テ戸主連署ニ不及候條此旨布達候事

甲第七拾六號十一月 阿波國一般へ

酒類營業鑑札檢査ノ儀ハ八年二月第貳拾六號公布酒類稅則第二則第一條ノ通毎年十月中管轄廳ヨリ日限相達スヘク成規ニ候處詮議ノ次第有之今後年々達方不致毎年十月限ヲ以鑑札檢査並營業稅上納ノ期限ト相定候條區戸長ニ於テ稅金取經メ可納出此旨布達候事

甲第七拾七號十一月 阿波國一般へ

明治八年舊名東縣第二百二十七號達書第十二條自今左ノ通改定候條此旨布達候事

第十二條

貳等道路ノ修繕ハ其區内ニ於テ目論見相立願濟ノ上着手シ三等道路ハ總テ區戸長ニ於テ取計モノトス尤落成ノ上ハ孰レモ出來形精算帳ヲ以テ可届出事

但新規變更又ハ管廳ノ起工ニ出ル者ハ本文ノ限ニ非ス

甲第七拾八號十一月 一時達

甲第七拾九號十一月 全

甲第八拾號十一月 告諭

甲第八拾壹號十一月 一時達

甲第八拾貳號十一月 全

甲第八拾三號十一月 阿土兩國一般へ

酒類釀造營業人心得別冊之通相定候條此旨布達候事
但組合編制並當壹期組合長撰定届ハ來ル五月限無遲延

明治十一年

可差出候事(本年甲第貳百九拾七號參看)

別冊

酒類釀造人心得書

凡ソ清酒味淋燒酎銘酒白酒濁酒ヲ釀造シテ營業トナスモノハ明治八年第貳拾六號公布及ヒ右ニ關スル公布々達等ヲ確守スヘキハ勿論ナリト雖ヒ尙其細目ニ至リテ誤解ナカラシメシカ爲メ今其心得ヲ示ス左ノ如シ

第一則 釀造人心得

第一條

酒類釀造人ハ組合ヲ立テ組合長ヲ置クヘシ組合編制方法ハ本則第二條ニ據リ組合長ハ營業人中投票ヲ以テ每一組ニ貳人ヨリ三人マテヲ撰定シ第壹號書式ニ倣ヒ組合一

同連署シテ届出ツヘシ

第二條

組合編制ハ每一小區ヲ以一組合ト定ムヘキモノトス其營業人員ハ十名以上タルヘシ然レヒ壹小區内若シ十名未滿ナレハ各地便宜ノ小區ト合併シ人員十名以上ニ至ラシメ組合ヲ定ムヘシ

第三條

組合長ハ壹期中(某年十月ヨリ)ト定メ每壹期更撰シ九月中本則第壹條手續ヲ以テ届出ルモノトス然レヒ衆議ニ因テ尙ホ幾期ヲ重ヌルモ妨ナシ

但事故アツテ闕員スル時ハ本則第壹條ノ手續ヲ以テ速ニ其補闕ヲ撰定シ届出ツヘシ

明治十一年

第四條

組合長ハ公平ヲ主トシ威權ヲ振ヒ或ハ專斷偏頗等ノ所爲ナキハ勿論ト雖モ万一右等ノ弊アルキハ組合同協議ノ上ハ改撰スルコトヲ得ヘシ

第五條

醸造ニ關スル諸願伺届等ハ組合長ノ連署ヲ以テ區戸長ヲ經テ差出スヘシ

第六條

新タニ酒類醸造ノ營業ヲ爲サント欲スルモノハ第貳號書式ニ倣ヒ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第七條

醸造營業免許ノモノ自カラ行商シ或ハ家族又ハ雇人ヲシ

テ行商セシムルモノハ第三號書式ニ倣ヒ行商鑑札ヲ願受クヘシ

第八條

但雇人ハ戶籍法ニ據テ其區々戸長ヘ届濟ノ者ニ限ルヘシ

壹個ノ醸造場ニ於テ數人組合營業スルハ苦シカラスト雖モ免許鑑札願受ノ節其願書ニ連署スヘシ

第九條

但壹人ニテ免許鑑札ヲ受追テ組合營業スルモノハ其旨ヲ具狀シ許可ヲ受クヘシ

第十條

醸造廢業ノモノハ其返納スヘキ免許鑑札並行商鑑札へ第
四號書式ニ倣ヒ届書二通ヲ添ヘ十月中差出スヘシ

免許鑑札並行商鑑札若シ水火盜難ニ罹ルカ或ハ毀損遺失等ノ節ハ第五號書式ニ倣ヒ其事由ヲ詳記シ速ニ鑑札再引渡換ヲ願出ツヘシ

第拾壹條

免許鑑札賣買讓與又ハ改名代換轉居等ノ節ハ第六號書式ニ倣ヒ速ニ鑑札引換ヲ願出ツヘシ

但本條免許鑑札賣買又ハ他ハ讓與等ノ節其行商鑑札ハ返納スヘシ其他ハ免許鑑札同時引換ヲ願出ツヘシ

第拾貳條

毎年十月中届出ベキ酒類醸造石高ハ其元玄米（燒酎ハ酒高）ヲ定メ前年ノ製酒ニ比較シ尙ホ其年ノ醸造方法ヲ酌量シ共製酒石數見込相立テ第七號書式ニ倣ヒ届書ヲ製シ組合

長へ差出スヘシ

但新規免許ノモノハ其都度本條ノ手續ニ依ルベシ

第拾三條

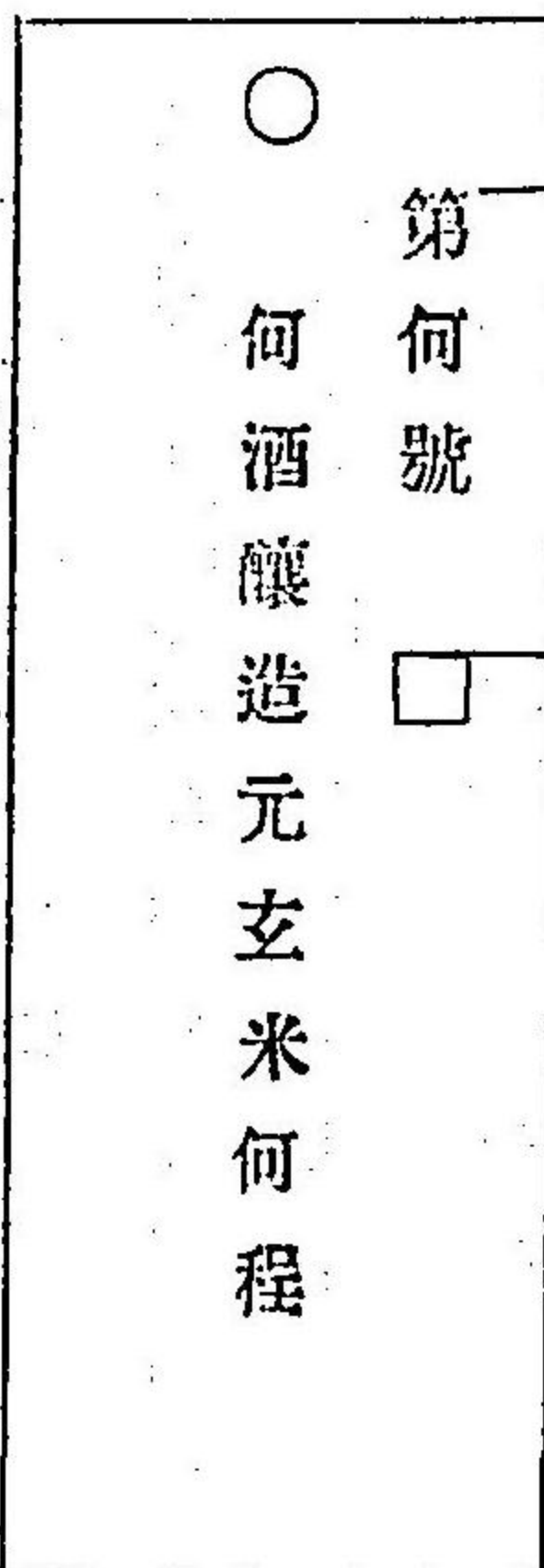
前條ニ依テ届出タル醸造元石高ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看板ヲ製シ大書シテ組合長ノ捺印ヲ受ケ其一期營業中ハ必ス日々戸外ニ掲ケ置クヘシ

但其石高増減スルキハ其都度速ニ書換ヲナスヘシ

鑑札番號組合長印

第何號

用木適宜
一種醸造ノ分
長三尺幅八寸



裏面國名
大小區地
名姓名ヲ
記スベシ

明治十一年

鑑札番號組合長印

八四四

各種醸造ノ
分長三尺幅
一尺

第何號	何酒醸造元	立米何程
第何號	何酒醸造元	何々何程
第何號	何酒醸造元	何々何程
第何號	何酒醸造元	何々何程

裏面前ニ
同

第拾四條

酒類醸造ハ其醸造皆濟マテ日々造込ノ白米石數(燒酎ハ酒樽目方)一ヶ月分合計シ翌月十日限第八號書式ニ倣ヒ届出ツベシ

第拾五條

最初届出置タル醸造見込石高事故アツテ増減スルキハ第九號第拾號書式ニ倣ヒ速ニ届出ツヘシ

第拾六條

醸造税上納皆濟期限前非常ノ災害ニ罹ルカ或ハ腐敗等ノ節ハ速ニ其旨ヲ申出臨時檢査ヲ受クベシ

第拾七條

但腐敗シタル酒類ヲ他ノ品類ニ變製スルカ或ハ酢醗ニ販賣スルカ又ハ廢棄スルカ其見込申出ツヘシ
清酒味咻銘酒等ノ醸造家ニ於テ燒酎ヲ蒸溜シ清酒ノ精氣ヲ助クル爲メ之ヲ和シ又ハ酒桶ニ注キ又ハ味咻銘酒ノ釀用等ノミニシテ全ク燒酎ニテ販賣セサル分ハ燒酎蒸溜免許鑑札願受クルニ及ハス

但本條蒸溜ノ燒酎ハ其酒類醸造石高届書へ書式ニ倣ヒ其石數ヲ記載スベシ

明治十一年

八四五

第拾八條

自己醸造ノ外他ヨリ酒類ヲ買受醸造場ニ於テ販賣スルハ
苦シカラス成規ナリト雖モ買受ノ都度第拾四號書式ニ倣
ヒ明瞭ニ記載シ其仕切書或ハ代金受取證等ハ証憑ノ爲メ
必ス備置キ醸造高檢査ノ際指圖アレハ之ヲ差出スヘシ

第拾九條

酒類醸造廢業ノモノ免許鑑札ヲ返納シ其免許中醸造シタ
ル酒類ノ殘餘アツテ之レヲ販賣セント欲スルモノハ更ニ
酒類受賣免許鑑札卸小賣ヲ區別シ願受クヘシ

第貳拾條

酒類醸造ニ用フル桶類新調又ハ調査濟ノ桶輪換等ニテ尺度
減縮スルモノハ其都度第拾壹號書式ニ倣ヒ届出テ容量調

査ヲ受クヘシ

第貳拾壹條

新調又ハ輪換等ノ桶類調査トシテ毎年壹度若クハ貳度官
吏派出セシムヘシ其節調査ヲ受クヘキ桶類ハ成ベシ明ケ
置クヘシ

但本條調査以前都合ニ因リ酒類ヲ容レント欲スルハ
區戸長ヘ申出共桶尺度石數等ノ改メヲ受クヘシ然ル後
酒類ヲ容ルハ苦シカラス

第貳拾貳條

調査ヲ受クヘキ桶類ハ左ノ調査法及ヒ算則ヲ以テ其石數
ヲ算出シ左ノ雛形ノ如ク尺度石數等ヲ詳記シ每桶側面ヘ
貼附シ置クヘシ

明治十一年

口徑何程
底徑何程
深何程
石數何程

但地震用心ノタメ三寸ヲ減シ如此

酒桶尺度調査法

口徑口頭ヨリ三寸ヲ下リテ測ルモノトス

底徑桶底ヲ以テ測ルモノトス

深極底ヨリ口頭マテノ尺度ヲ測リ地震用心ノタメ三寸

△五三

口徑ヲ自乗シ底徑ヲ自乗シ又口徑底徑ヲ相乗シ三和シテ
 深及ヒ圓積率七分八五四ヲ乘シ三除シテ之レヲ枳法六十
 四寸八二七ヲ以除スレハ則チ其石數ヲ得

但石數ハ尺以下ヲ勿捨合止メニスヘシ

假令ハ口徑五尺五寸之レヲ掛合セハ三〇〇二五トナル之

レヲ甲トシ底徑五尺之レヲ掛合セハ二五トナル之レヲ

乙トシ又口徑五尺五寸ニ底徑五尺ヲ掛クレハ二七五ト

ナル之レヲ丙トシ是ノ甲乙丙ノ三ツヲ合セハ八二七五

トナル之レニ深四尺五寸ノ總深四尺八寸ノ所地震用心ヲ

掛クレハ三七二五トナル之レニ圓積率七八五四ヲ

掛クレハ二九二四六三三二五トナル之レヲ三ツニ割レ

ハ九七四八七七五トナル之レヲ枳法六四八二七ヲ以

明治十一年

八四九

ヲ割レハ一〇五〇三〇八一四余トナル即チ此石數拾五石三升八合トスルノ類

右本則ハ容易ニ算出シカタシ故ニ左ノ略法ヲ用フルモ妨ケナシ

畧法

口徑ヲ自乗シ底徑ヲ自乗シ又口徑底徑ヲ相乗シ三和シテ深ヲ乘シタル積ニ四〇三八五ヲ乘シテ石數ヲ得ル右算則比例ノ寸法ニ依リ積ニ三和シテ深ヲ乘シ三〇七二〇三七五ニ四〇三八五ヲ掛シレハ一〇五〇三〇八一四余ト成ル則チ此石數拾五石三升八合トスルノ類

第貳拾三條

調査濟ノ桶類賣買又ハ貸借解撤等ヲ爲サント欲スルモノ

ハ第拾貳號書式ニ倣ヒ届出ツヘシ

第貳拾四條

醸造所用ノ帳簿類ヘハ日々取扱フ米金(燒酎ハ酒糟)及ヒ物賃ノ買入レ雇工ノ賃金ニ至ル迄明瞭ニ登記シ置キ追テ醸造高検査ノ節派出官吏ノ指圖ニ從ヒ差出調査ヲ受クベシ但推問ノ件アラハ精細ニ答辨スヘシ

第貳拾五條

醸造高検査ノ節ハ第拾三號書式ニ倣ヒ豫テ蒸溜石高検査帳製置派出官吏ヘ差出スヘシ

但本條検査ノ節其桶容量未滿ノ分ハ口ヨリ明キ何尺何寸此石數何程ト共桶毎ニ貼紙致シ置クヘシ

第貳拾六條

明治十一年

毎年十月ニ至リ前期醸造ノ古酒アル時ハ區戸長ニテ其石
數ノ改メヲ受ケ置クヘシ

第貳拾七條

前條ノ場合ニ於テハ第拾四號書式ニ倣ヒ帳簿ヲ製シ其石
數等ヲ書載シ其改メ濟ノ證ヲ受ケ置クヘシ

第貳拾八條

醸造高檢査ノ際ハ隠蔽ナキヲ證スル爲メ明キ桶ハ悉ク其
飲口ヲ拔キ明キ瓶ハ其蓋ヲ取放ツハ勿論土藏物置等ノ戸
前ヲモ開キ置クヘシ

第貳拾九條

官吏派出檢査以前醸造酒類ノ内若干販賣セント欲スルモ
ノハ區戸長へ申出共石高檢査ヲ受ケ販賣スヘシ尤石高檢

査帳及ヒ其他ノ手續等ハ本則第貳拾五條ト同様タルヘシ

第三拾條

前條區戸長ニテ檢査ヲ受ケシ酒類ハ其桶ノ番號及ヒ酒類
ノ石數等左ノ甲號雛形ノ如ク記載シ其酒類賣盡スマテ毎
桶側面へ貼紙致シ置クヘシ

但都合ヲ以テ他ノ桶ニ容換スルキハ左ノ乙號雛形ノ如
ク書載シ其桶へ貼附シ置クヘシ

第何號桶

甲號

何酒何程何年何月何日御檢査濟

乙號

元何號桶何年何月何日御検査濟

高何程ノ内

何酒何程 何年何月何日入換

第三拾一條

醸造税收入ニ用フル相場ノ儀ハ某年十月ヨリ翌年六月マ
テ日々販賣スル處ノ上酒新酒古酒卸小代價ヲ以平均スル
モノナレハ賣捌代價届ノ儀ハ本年當廳乙第四拾壹號達ニ
照準シ速ニ届出ツヘシ

但本文届出タル酒價若シ其當ヲ得サルト認ムルキハ官
吏派出セシメ其賣立帳簿等ヲ調査スルヲモアルヘシ

第三拾二條

營業税ハ十月醸造税凡半高ハ四月決算殘高ハ九月中收入
ニ付管區々戸長ヨリ達ノ日限ヲ怠ラス速ニ納出ツヘシ
但營業税上納毎年十月ノ際免許鑑札ヲモ同時差出スヘシ縣
廳於テハ検査濟ノ證トシテ干支ノ印ヲ押捺シ下付スヘ
シ

第三拾三條

前條々ニ其細目ヲ示スト雖モ尙ホ實施疑團ノ件アレハ組
合長ノ説明ヲ受クヘシ

第二則

醸造組合長心得

第壹條

醸造人中ヨリ撰舉セラレタル組合長ハ共一期某年十月ヨ
リ翌年九月
テ中醸造ニ關スル營業上ノ取締ヲナシ勉メテ公平廉直ヲ

明治十一年

旨トシ荷クモ威權ヲ振ヒ或ハ愛憎偏頗等ノ所爲アルヘカ
ラス

第貳條

醸造ニ關スル規則及ヒ布達等疑團ニ涉ル際アラハ其大ナ
ルハ書面ヲ以テ指揮ヲ請ヒ其小ナルハ主任官吏ノ説明ヲ
受ケ之レヲ醸造人へ懇諭シ必ス姑息又ハ專斷ノ所爲アル
ヘカラス

第三條

醸造營業ニ係ル諸願何届等ノ書面ヘハ必ス組合長連署スヘシ
但税金上納ハ關係スルヲナシ

第四條

毎年十月中指出スヘキ醸造石高（即チ製酒）届書ハ其（組合中
見込高）

取纏メ管區々戸長へ差出スヘシ

第五條

組合長ハ左ノ雛形ニ倣ヒ印章ヲ製シ置キ第一則第拾三條
ニ據リ其醸造元石高記載ノ看板へ（其石高届書ト相）之ヲ烙
記スヘシ

烙印雛形	醸造組	縦二寸一步
篆書	合長印	横一寸六步

第六條

製酒見込高及ヒ減石届月々酒類賣捌代價届等其當否ヲ參
査考量シ若シ其當ヲ得サルモノト認ムルハ懇篤説明シ
之レヲ再調セシムルヲ要ス

明治十一年

第七條

醸造人ノ心得違ヒヨリ買酒或ハ検査済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和シ販賣スルモノ或ハ検査未済ノ酒類ヲ販賣シ或ハ検査ノ際醸造高ヲ隠蔽スル等自カラ犯則ニ陥ルモノナカラシムルヲ要ス

第八條

酒類醸造免許鑑札及ヒ行商鑑札ヲ貸借シ或ハ戸籍届済ノモノヲ除クノ外雇人ノ名義ヲ以テ酒類ヲ行商セシムルモノナカラシムルヲ要ス

第九條

壹人免許鑑札ヲ受ケ置キ私ニ數人組合醸造場ヲ異ニシ營業スル等ノモノナカラシムルヲ要ス

第十條

自用小稱シ酒類ヲ醸造シ販賣スルカ或ハ酒類受賣ノ者ニシテ酒類ヲ醸造シ販賣スル者アラハ其旨速ニ届出ツヘシ

第十一條

醸造税上納期限前若シ他ノ負債上ヨリ相對ヲ以身代引渡スモノアルヲ聞知スレハ其旨速ニ區戸長へ告知スヘシ

第十二條

組合長ハ専ラ其組合ヲ取締ルヘキモノナリト雖モ若シ他ノ組合不正ノ所業アリト認ルルハ其組合ニ就テ調査スルヲ得ヘシ

第十三條

前條ノ場合ニ臨ミ其管區々務所等へ立越其醸造石高或ハ

明治十一年

營業人名ヲ照會シ或ハ尋問スル等ノコトヲ得ヘシ

第十四條

醸造ノ事件ニ係ル組合長ノ諸經費ハ明ラカニ帳簿ニ登記シ置キ細カニ之レヲ區戶長ニ稟議シ而シテ各醸造人ニ明告シ至當ニ賦課シ決シテ濫冗浪費ノ弊アルヘカラス

酒類醸造組合長撰定御届

國名大小區地名

何ノ誰

國名大小區地名

何ノ誰

(式書號一第)

右者何大區何小區或ハ何小區一組ト相定メ本年十月ヨリ來何年九月マテ酒類醸造組合長ニ撰定仕候依テ連署ヲ以

(シヘス出差通一)

テ此段御届仕候也
年月日

國名大小區地名何酒醸造人

何ノ誰印

國名大小區、、、、、

何ノ誰印

以下右ニ准ス

高知縣長官宛

區戶長與書

酒類行商願

何酒第何號免許鑑札ノ番
一酒類行商御鑑札何枚

(式書號二第)

明治十一年

(正副二通差シヘ)

右者今後ハ家族或ヲ以テ行商爲仕度候ニ付御鑑札御下渡被成下度此段奉願候也
年月日
國名大小區地名酒造人
何ノ誰印
醸造組合長
何ノ誰印

八六三

高知縣長官宛

區戶長與書

(第三號書式)

一 何酒蒸溜造

何酒醸造營業願

〔出店ニテ營業スルモノハ大小區〕
地名出店ト此所ヘ記スヘシ

(正副二通差シヘ)

右者今後營業仕度候ニ付御免許鑑札御下渡被成下度此段奉願候也
年月日
國名大小區地名番地
士族或ハ何ノ誰印
平民或ハ何ノ誰印
醸造組合長
何ノ誰印

高知縣長官宛

區戶長與書

(第四號)

第何號(免許鑑札ノ番)
何酒醸造營業願

〔他區ニ出店スルモノハ共〕
出店管區ノ與書ヲ要ス

明治十一年

八六三

(式書

第一 何焼何酒
何號 耐酒
何或 蒸釀
ハ溜 造
マ何 御
テ號 免
ヨリ 許
リ 鑑
札

一酒類行商御鑑札何枚

右者廢業仕候ニ付御鑑札返納仕候依テ桶類御根居並御檢

印共御消除被成下度此段御届仕候也
〔廢業ニテスルト雖モ追テ營業ヲスルノ見込アルモノハ本
〔文書ニテスル御下拾五字ヲ檢印共ハ一期
〔中任共儘御指置ノ三十一字ヲ加フヘシ
年月日

國名大小區地名

何ノ誰印

醸造組合長

何ノ誰印

(式書號五第)

第一 何何
何號 耐酒
何或 蒸釀
ハ溜 造
マ何 御
テ號 免
ヨリ 許
リ 鑑
札

一酒類行商御鑑札何枚

右御鑑札去ル何日何々〔其事由ヲ詳ノ節或ハ誤テ毀損失仕候
ニ付御再引換被成下度此段奉願候也

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

明治十一年

(シヘス出差通二副正)

高知縣長官宛

區戶長與書

(シヘス出差通二副正式書號六第)

ヨ買居右一第
リ受仕者燒何何
年上人候病今耐酒號
月納又ニ死般蒸釀ヲ免
日可ハ付去賣溜造記許
仕讓御ル買御ス鑑
候受人免許日ハ讓免
此段奉願候也
國名大小區地名

高知縣長官宛

醸造組合長

何ノ誰印

(式書號七第)

一第
何何
此酒釀造元立米何程
製酒何程
燒酎ハ實等加味酒ノ中ハ燒酎
石高御届
區戸長與書
八六七

高知縣長官宛

區戸長與書

〔組合異ナル時ハ双方〕

讓渡人或ハ父兄隱居
國名大小區地名
何ノ誰印
買受人或ハ相續人
何ノ誰印
醸造組合長

(シヘス出差通一每類種)

外燒耐何程 但何々用
清酒ノ精氣補助用或ハ桶手入
ハ耐又ハ醸造用ト實ト味ニシ者
其加實何程ト外書ニスル者
右者當一期醸造見込石高書面之通候間此段御届仕候也
年月日

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

醸造組合長

何ノ誰印

高知縣長官宛

區戶長與書

(式書號八第)

第何號 (免許鑑札番號)
何酒造込石高御届

(シヘス出差通一每類種)

一何酒醸造元白米何程 (燒酎銘酒等ハ第七號)
書式註解ニヨルヘシ
内
白米何程 酏米
同何程 添米
同何程 麴米
右者何月中造込高書面之通相違無御座候此段御届仕候也
年月日

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

醸造組合長

何ノ誰印

高知縣長官宛

明治十一年

八六九

八六八

西曆一千九百一十一年

第九號式書類一每類通出(シハス)

第一何號
 一何酒釀造元玄米何程
 此製酒何程
 外何々何程
 右者當一期釀造蒸溜高見込御届仕置候處書面之石高增加
 仕候ニ付此段御届仕候也
 年月日

區戶長與書

高見込増御届

(燒酎銘酒等ハ第七號式註解ニヨルヘシ)

(外書第七號書式註解ニヨルヘシ)

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

釀造組合長

第十號式書類一每類通出(シハス)

第一何號
 一何酒釀造元玄米何程
 此製酒何程
 外何々何程
 右者當一期釀造蒸溜高見込御届仕置候處書面之石高減少仕候
 ニ付此段御届仕候也
 年月日

高知縣長官宛

區戶長與書

(燒酎銘酒等ハ第七號式註解ニヨルヘシ)

(外書第七號書式註解ニヨルヘシ)

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

明治十一年

(シハス出差通一式書號一十第)

一酒桶 此石數何程 但深底口深底口深底口深底口
 一酒桶 此石數何程 但深底口深底口深底口深底口
 (此輪書換式ハ共ヨルヘシ號ヲ記スベシ瓶類新調モ)
 酒桶換新調縮御届
 此石數何程 但深底口深底口深底口深底口
 以下右ニ倣フ

高知縣長官宛

區戸長與書

釀造組合長

何ノ誰印

八七二

右者今般輪換減縮ハ仕候ニ付御調査被成下度此段御届仕候也
 何本
 年月日

國名大小區地名酒造人

何ノ誰印

釀造組合長

何ノ誰印

高知縣長官宛

區戸長與書

酒桶賣買又ハ御届

第何號(桶ノ番號ヲ)

明治十一年

八七三

(第 二十 號 式 正 副 二 通 差 出 入 式)

一 酒 桶 壹 本 但 口 徑 何 程
 石 數 何 程 深 何 程
 第 何 號 但 何 程
 一 同 壹 本 但 何 程
 石 數 何 程 但 何 程
 以 下 右 二 準 ス
 ノ 何 本
 右 者 今 般 造 酒 用 爲 買 候 間 賣 却 又 ハ 解 撤 仕 度 候 二 付 此 段 御
 屈 仕 候 也
 (桶 買 受 人 印 込 ノ 釀 造 人 ニ ア ラ ス ト 雖 モ 追 テ 釀 造)
 營 業 可 致 見 込 ノ 者 ハ 共 旨 屈 書 ニ 記 ス ヘ シ

國 名 大 小 區 地 名 酒 造 人

何 ノ 誰 印

或 ハ 何 々

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

高 知 縣 長 官 宛

區 戶 長 與 書

(組 合 長 連 署 ス ヘ シ 雙 方)

釀 造 組 合 長

賣 渡 主 國 名 大 小 區 地 名 酒 造 人 或 ハ 何 々

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

明治十一年

八七七

第十三號書式 種類每一冊

明治何年度(明治十年十月ヨリ同十一年九月マ)
何酒釀造石高御檢査帳

國名大小區地名酒造人

何ノ誰

明治十一年

八七七

第何號(免許鑑札番號)

一何酒釀造元立米何程

此製酒何程

外何々何程

此所石高増減ノ際書載ス

可シ爲メ明ケ置クヘシ

此譯

何程 第何號桶

右何年何月何日檢査

何程 第何號桶
以下書式右ニ準ス

區戸長

何ノ誰印

(桶容量未滿ノ分ハ容量何程ノ所口ヨリ明キ何尺何寸ニ付如此ト記スヘシ)

(外書ハ第七號書式)

見込御届高

(燒耐銘酒等ハ第七號書式註解ニヨルヘシ)

合計何程 (官吏派出檢査ノ節書式同様タルハシ尤)

右之通相違無御座候也

年月日

酒造人

何ノ誰印

第十四號書式 種類每一册

自明治何年十月
至同何年九月
古何酒 並買酒石高帳

國名大小區地名酒造人

誰何ノ

明治十一年

八八三

一古酒何程 何年度御檢査濟殘高

八八三

内

何程 何號桶

何程 何號桶

(此桶容量未滿ノモノアレハ口ヨリ明キ何尺何寸ニ附如
右何年十月何日改

區長 何ノ誰印

一買酒何程

右ハ何年何月何日國名大小區地名何ノ誰ヨリ買受
但買受仕切書或ハ代金受取書有之

一買酒何程 以下書式右ニ準ス

右ハ何々、々、
但何々、々、

釀造高檢査ノ際差出スルハ左ノ件々ヲ記スヘシ
合何程

右之通相違無御座候也

年月日

酒造人

何ノ誰印

甲第八拾四號 十四日

甲第八拾五號 十五日

甲第八拾六號 十六日

○ 一時達
阿波國一般へ

水理ニ關スル一切ノ土工ハ官許ノ後執行可致管ノ處近來
無願ニテ自儘ニ起工シ夫カ爲メ被害ノ向モ有之哉ニ相聞
へ甚不都合ニ付右等ノ者ハ屹度可及詮議候條心得違無之
檢可致此旨布達候事

明治十一年

八八三

甲第八拾七號 四月十六日 阿波國へ一時達

甲第八拾八號 四月十六日 阿波國へ同

甲第八拾九號 四月十七日 阿波國一般へ

賣買讓渡シ其他事故ニヨリ地所分裂地券書替願出候節願

單書ニ差添來候圖面ノ儀區及相成居候ヨリ調査差問候條地

單租改正整頓迄ハ明治十年二月丑乙第十六號布達圖面ニ照

準裂地ノ間敷及舊反別ヲ記載致シ差添可申此旨布達候事

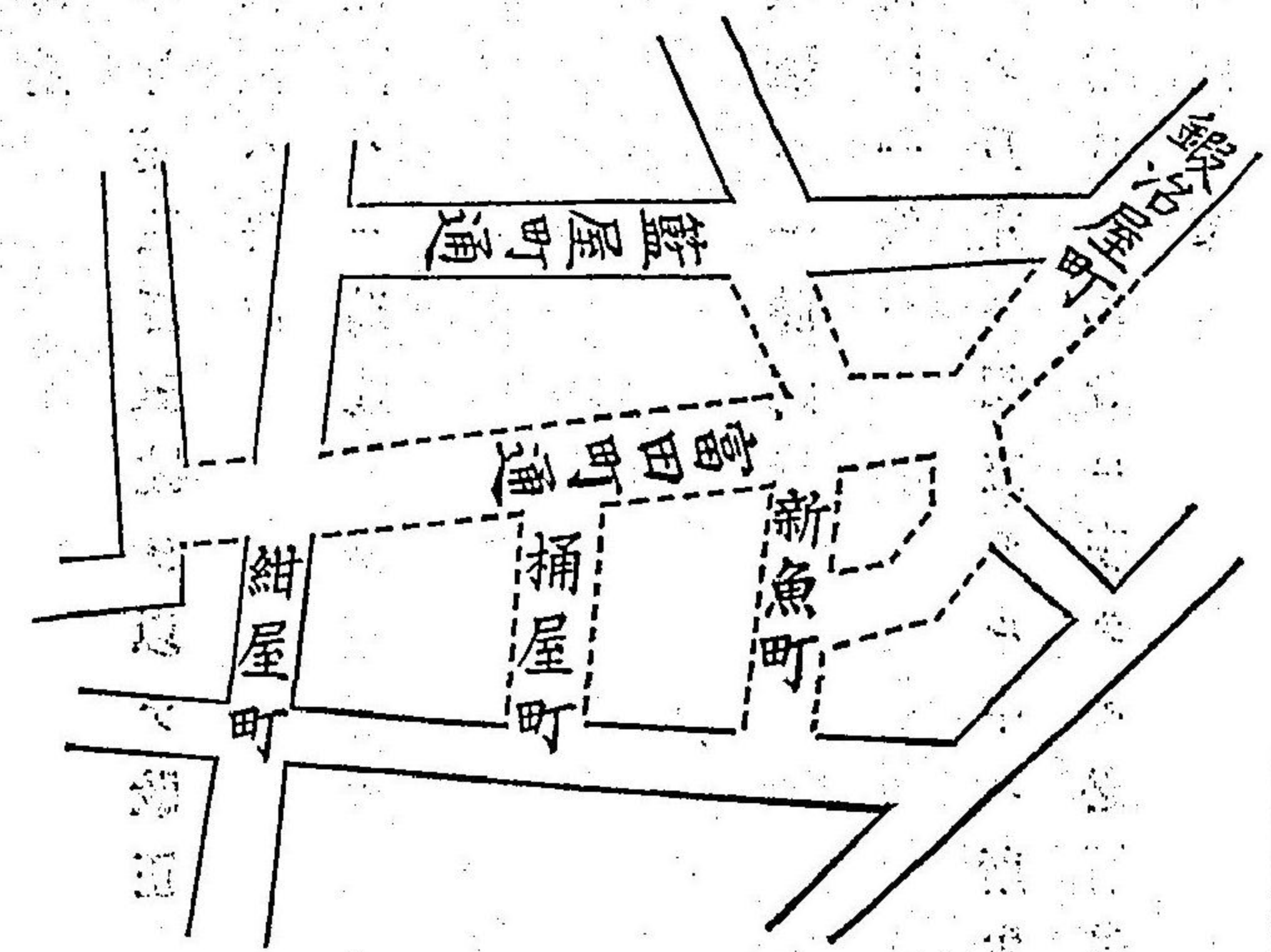
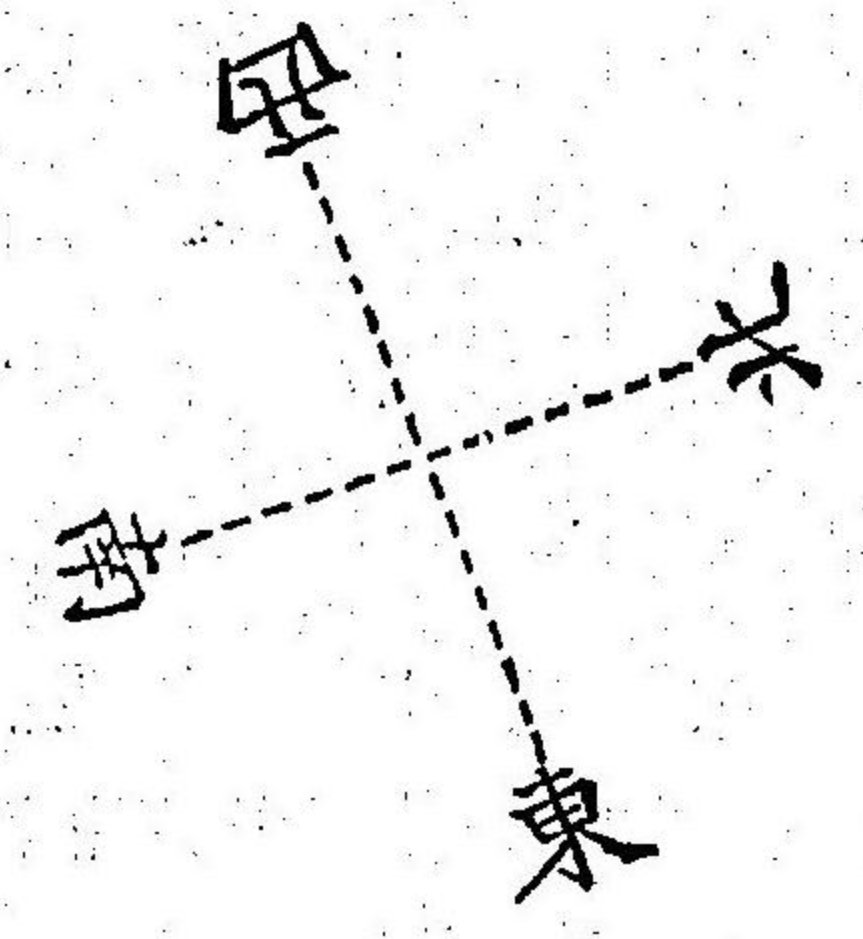
甲第九拾號 四月廿三日 阿波國一般へ

藝舞妓居留地ノ儀本年支第三十壹號ヲ以テ布達候處右之

内第壹大區貳小區内居留地區域左書圖面采引之通改正候

條此旨布達候事

但采引ノ道路ニ向ケ門戸等ヲ開クモノニ限ルヘシ



甲第九拾壹號 廿四日 一時達
 甲第九拾貳號 廿四日 本年甲第三百五號ヲ以テ改正
 甲第九拾三號 廿四日 阿波國へ告諭
 甲第九拾四號 廿四日 阿波國へ一時達
 甲第九拾五號 廿四日 同
 甲第九拾六號 廿四日 同
 甲第九拾七號 廿四日 同
 甲第九拾八號 廿四日 阿波國へ一時達
 甲第九拾九號 廿七日 阿波國へ一時達
 婦女他へ嫁シ候トモ夫家ニテ戸主ニ相立サル中ハ所生ノ
 苗字相用ユヘシ其姓名ヲ單稱スル場合ニ在テハ必肩書ニ
 夫ノ姓名ヲ記載可致此旨布達候事

甲第百號 三十日 土兩國一般へ

患者死亡届之内述ニ病發或ハ僻陬之地等醫師ヲ迎ルニ際
 ナク遂ニ死亡候向ハ其親戚若クハ介抱人ニオイテ生前ノ
 患狀ヲ証シ必最寄之醫師ニ告クヘシ醫師ニオイテハ之ヲ
 追診シ成規ニ準シ死亡届書ヲ該病家へ授與可致此旨布
 達候事

甲第百一號 三十日 阿波國へ一時達

甲第百二號 三十日 阿波國一般へ

本年當廳甲第七十三號布達左之通但書追加候條此旨布達
 候事

但監商砂糖商ハ本文ノ限外ト心得ヘシ

甲第百三號 一五 日 阿波國一般へ

明治十一年

本年甲第六十九號布達第一則第七條第二則第五條左之通
改正候條此旨布達候事

八八八

第一則第七條

一税金之義ハ各區戶長ニ取纏メ其月分翌月十日限收納可
致候事 本年甲第五百十八號ヲ以但書追加

第二則第五條

一税金之儀ハ各區戶長ニ取纏メ其月分翌月十日限收納
可致事

甲第百四號 五月一日
甲第百五號 五月一日

甲第百六號 五月二日
甲第百七號 五月五日
甲第百八號 五月六日

諸車所持ノ者ハ明治八年第廿七號公布車稅規則及七同年

第四百四十六號舊名東縣布達等ニ照準區戶長ハ届出檢印可

申受管之處中ニハ耕作一途ニ用ユル荷積車檢印不申受使

用候者有之哉ニ相聞ヘ甚不都合之事ニ候條右所持ノ者ハ

速ニ届出税金免除ノ檢印可申受此旨諭達候事
甲第百九號 五月七日
甲第百十號 五月七日
甲第百十一號 五月九日

今般内務省ヨリ達之趣ニ有之候條左之件々可相心得此旨

明治十一年

八八九

布達候事

八九〇

一 人民其所有山ニ火入ヌル時ハ明治七年内務省甲第三號
 布達ニ照準可致ハ勿論其近傍ノ官林守設置有之場所ハ運
 クル前日迄ニ申報致シ官林守立會ヲ受ケ火入可致候事
 二 官林中下草又ハ官山肥秣等刈取リ儀ハ兼テ出願ノ上許
 可ヲ得鑑札ヲ携帶シテ立入ルヘシ無鑑札ニテ立入候儀
 不相成事

- 甲第百拾貳號 五月一日 一時達
- 甲第百拾三號 五月十一日 土佐國一般へ
- 丑規第五拾號 第十五條但書共刪除
- 甲第百拾四號 五月十三日 一時達
- 甲第百拾五號 五月十四日 告諭

- 甲第百拾六號 五月十五日 一時達
- 甲第百拾七號 五月十五日 同
- 甲第百拾八號 五月十七日 告諭
- 甲第百拾九號 五月十七日 一時達
- 甲第百二十一號 五月二十日 阿兩國一般へ
- 丑甲第八拾六號 布達但書刪除
- 甲第百二十二號 五月廿一日 阿波國へ
- 電信取扱規則
- 甲第百二十三號 五月廿三日 阿波國一般へ

違式註違條例今般左ノ通改正候條此旨布達候事

違式註違條例

明治十一年

八九二

- 第一條 違式ノ罪ヲ犯ス者ハ七拾五錢ヨリ少ナカラ
ス百五拾錢ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス
- 第二條 註違ノ罪ヲ犯ス者ハ五錢ヨリ少ナカラス七
拾錢ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス
- 第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ノ者ハ實決スルヲ
左ノ如シ
- 一 違式 懲役 八日ヨリ少ナカラス
十日ヨリ多カラス
- 一 註違 拘留 七日ヨリ少ナカラス
十日ヨリ多カラス
- 但シ拘留ノ罪ト雖モ適宜懲役ニ換ユルヲアルヘシ
- 第四條 違式並ニ註違ノ罪ニヨリ取上クヘキ物品ハ
贖金ヲ科スルノ外別ニ沒收ノ申渡シヲ爲スヘシ
- 第五條 違式註違ノ罪ヲ犯シ人ニ損失ヲ蒙ラシムル

時ハ先ツ其損失ニ當ル償金ヲ出サシメ後ニ贖金ヲ命ス

ヘシ

- 第六條 違式ノ罪目ト雖モ情狀輕キ者ハ減等シテ註
違ノ贖金ヲ追徴シ註違ノ罪目ヲ犯スト雖モ重キハ加等
シテ違式ノ贖金ヲ追徴スヘシ其犯ス處極メテ輕キハ止
タ阿責シテ放免スルヲアルヘシ

違式罪目

- 第七條 贗造ノ飲食物並ニ腐敗ノ食物ヲ知テ販賣ス

ル者

- 第八條 春書及ヒ其類ノ諸器物ヲ販賣スル者

- 第九條 病牛死牛其他病死ノ禽獸ヲ知リテ販賣スル

者

第十條 身體ニ刺繡ヲナス者

第十一條 男女入込ノ湯ヲ渡世スル者

第十二條 乘馬シテ猥リニ馳驅シ又ハ馬車ヲ疾驅シテ

行人ヲ觸倒スル者

但殺傷スルハ此限ニ非ス

第十三條 外國人ヲ無届ニテ止宿セシムル者

第十四條 外國人ヲ私ニ雜居セシムル者

第十五條 人家稠密ノ場所ニ於テ妄ニ火技ヲ玩フ者

第十六條 火事場ニ關係ナクシテ乘馬スル者

第十七條 戲ニ往來ノ常燈臺ヲ破毀スル者

第十八條 牛馬及ヒ車留ノ揭示アル道路橋梁ヲ犯シテ

通行スル者

第十九條 男女相撲並ニ蛇遣ヒ其他醜體ヲ見世物ニ出ス者

第二十條 川堀下水等ニ土芥瓦礫等ヲ投棄シ流通ヲ妨

クル者

第二十一條 他人分ノ田水ハ勿論組合持ノ田水ヲ斷リテ

ク自恣ニ我田ニ引入ル者

第二十二條 他人ノ持場ニ入り筭或ハ草類ヲ無斷採リ去

ル者

第二十三條 搦撈場ヲ汚損シ並ニ其圍ヲ破毀スル者

第二十四條 堤ヲ壞テ又ハ斷リナク他人ノ田圍ヲ堀ル者

第二十五條 道敷内ニ菜蔬豆類ヲ植ヘ或ハ汚物ヲ積ミ往

來ヲ妨クル者

- 第三十六條 婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナス者
- 第二十七條 神物祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナス者
- 第二十八條 往來ニテ死牛馬其他諸獸ノ斃レタルモノ、皮ヲ剥キ肉ヲ屠ル者
- 第二十九條 他人ノ墓碑ヲ毀損スル者
- 第三十條 官有ノ山林等ニ禁制ノ榜示アルヲ犯セシ者
- 第三十一條 御用ト書タル小旗提燈等ヲ免許ナク猥ニ用ル者
- 第三十二條 他人ノ舟ヲ無斷棹シ遊ラ者
- 第三十三條 官有或ハ他人ノ山林田畠ニ入り植物ヲ損害スル者

- 第三十四條 神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者
- 第三十五條 無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若シハ人ヲ蠱惑スル者
- 第三十六條 神佛祭禮ノ節世話人等強テ出費ヲ促ス者
- 第三十七條 男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ或ハ奇怪ノ粉飾ヲナシ異体ヲナス者
- 第三十八條 但佛優歌舞妓等ハ勿論女ノ着袴スル類ハ此限ニ非ス
- 第三十九條 格子ヲ撥キ塙扉ヲ攀チ徒テ顔面ヲ出シ往來ヲ嘲哂スル者
- 第四十條 夜中無提燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者

- 第二十六條 婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナス者
- 第二十七條 神物祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナス者
- 第二十八條 往來ニテ死牛馬其他諸獸ノ斃レタルモノ、皮ヲ剥キ肉ヲ屠ル者
- 第二十九條 他人ノ墓碑ヲ毀損スル者
- 第三十條 官有ノ山林等ニ禁制ノ榜示アルヲ犯セシ者
- 第三十一條 御用ト書タル小旗提燈等ヲ免許ナク猥ニ用ル者
- 第三十二條 他人ノ舟ヲ無斷棹シ遊ラ者
- 第三十三條 官有或ハ他人ノ山林田畠ニ入り植物ヲ損害スル者

- 第三十四條 神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者
- 第三十五條 無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若クハ人ヲ蠱惑スル者
- 第三十六條 神佛祭禮ノ節世話人等強テ出費ヲ促ス者
- 第三十七條 男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ或ハ奇怪ノ粉飾ヲナシ異体ヲナス者
- 第三十八條 但俳優歌舞妓等ハ勿論女ヲ着袴スル類ハ此限ニ非ス
- 第三十九條 制禁ノ場所ニテ竹木ヲ伐ル魚鳥ヲ捕ル者
- 第三十九條 格子ヲ撥キ塙ヲ攀チ徒ラニ顔面ヲ出シ往來ヲ嘲哂スル者
- 第四十條 註違罪目
- 第四十條 夜中無提燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者

但海陸軍ノ諸兵非常ノ警戒アルキハ勿論平日隊伍ヲ細ニ夜陰行進及ヒ定制アル徽章ノ服帽着用ノ節ハ單騎ト雖モ此例ニアラス

第四十一條 牛馬車及人力車荷車等ヲ往來ニ置キ行人ノ妨ヲナシ及牛馬ヲ街衢ニ横ヲヘ行人ヲ妨クル者

第四十二條 禽獸ノ死骸或ハ汚穢ノ物ヲ往來等ニ投棄スル者

第四十三條 婦人ニシテ謂レナク斷髮スル者

第四十四條 下掃除ノ者蓋ナキ糞桶ヲ以テ搬運スル者但市外ハ此限ニ非ス

第四十五條 旅籠屋渡世ノ者止宿人名ヲ記載セス或ハ之ヲ届ケ出テサル者

第四十六條 往來筋ノ號札又ハ人家ノ番號名札看板等ヲ戲ニ破毀スル者

第四十七條 喧嘩口論及ヒ人ノ自由ヲ妨ケ且驚愕スルキ噪聲ヲ爲シ出セル者

第四十八條 往來常燈ヲ戲ニ消滅スル者

第四十九條 竊忽ニ依リ人ニ汚穢物及ヒ石礫等ヲ抛澆セシ者

第五十條 田園樹藝ノ路ナキ場ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入ル者

第五十一條 荷車及ヒ人力車等ヲ並ヘ挽キテ通行ヲ妨ケシ者

第五十二條 誤テ牛馬ヲ放テ人家ニ入レシメシ者

明治十一年